

疾病、傷害及び死因統計分類提要 総論・新旧対照表（事務局仮訳）

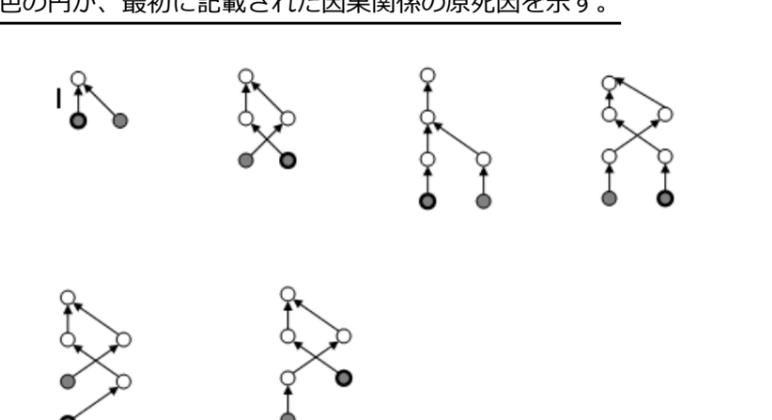
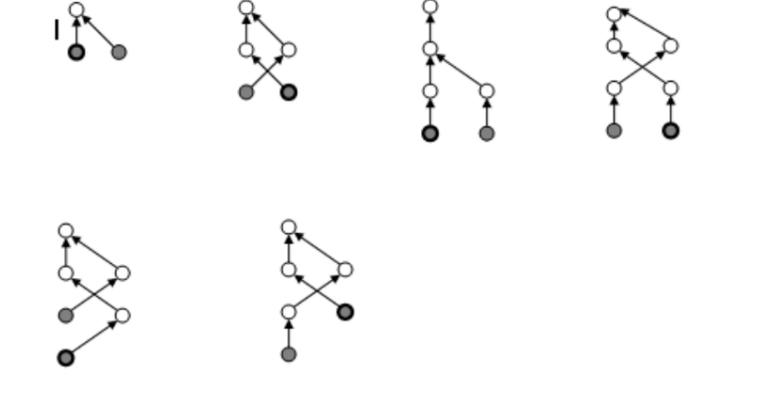
※WHO 勧告文及び改正案の文中における、追加、変更等は、下線により、又、削除は取り消線によって示している。

※連続する二行が灰色塗りとなっているものは、2010 年までに一度改正がありその後再度改正があったもので、始めの改正内容を上段、その後の改正を下段に記載している。

No.	現行	事務局仮訳	WHO 勧告（原文）
1	<p>目次 4.2.2 「因果関係がほとんどない」の解釈</p>	<p>目次 4.2.2 <u>「因果関係がほとんどない」の解釈</u> 死因統計の原死因の選択における認められる因果関係と認められない因果関係</p>	<p>Table of contents 4.2.2 Interpretation of “highly improbable” <u>Accepted and rejected sequences for the selection of underlying cause of death for mortality statistics</u></p>
2	5a 勧告	5.14a 勧告	5a. Recommendations 138a
3		<p><u>1. 導入</u></p> <p>疾病及び関連保健問題の国際統計分類第 10 版（ICD-10）の第 2 巻（総論）には、記録及びコーディングのガイドラインに加え、分類を利用する際の実用的な側面に関する新たな資料、分類の歴史的背景の概要が含まれている。分類（第 1 巻（内容例示表））とその使用方法の説明を同時に参照する必要がある際に使いやすいよう分冊となっている。索引表の使用方法に関する詳細な説明は、第 3 巻（索引表）の導入部に掲載されている。</p> <p>このマニュアルには、ICD に関する基本的な説明、疾病・死亡コーダーのための実用的な説明、データの表示及び解釈のためのガイドラインが記載されている。ICD の使用における詳細な訓練を提供することを意図したものではない。ここに掲載されている資料は、サンプル記録に関する広範な練習や問題点の議論ができるような正式な訓練コースにより補強される必要がある。</p> <p>ICD の使用にあたって生ずる問題が、現場あるいは国の統計担当局の助言によっても解決できない場合は、WHO 国際統計分類協力センター（第 1 巻（内容例示表）参照）から助言を受けることができる。</p>	<p>1. Introduction</p> <p>This volume of the Tenth Revision of the International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems (ICD-10) contains guidelines for recording and coding, together with much new material on practical aspects of the classification’s use, as well as an outline of the historical background to the classification. This material is presented as a separate volume for ease of handling when reference needs to be made at the same time to the classification (Volume1) and the instructions for its use. Detailed instructions on the use of the Alphabetical Index are contained in the introduction to Volume 3.</p> <p>This manual provides a basic description of the ICD, together with practical instructions for mortality and morbidity coders, and guidelines for the presentation and interpretation of data. It is not intended to provide detailed training in the use of the ICD. The material included here needs to be augmented by formal courses of instruction allowing extensive practice on sample records and discussion of problems.</p> <p>If problems arising from the use of the ICD cannot be resolved either locally or with the help of national statistical offices, advice is available from the WHO Collaborating Centres for the Family of International Classifications (see Volume 1).</p>
4	<p>2. 疾病および関連保健問題の国際統計分類の解説</p> <p>2.1 目的および適用範囲</p> <p>疾病分類は、ある一定の基準にしたがって疾病の本質を割り振る分類法のシステムと定義することができる。これには多くの分類軸が考えられるが、作成する統計の用途によって一つの分類軸が選択される。疾病の統計分類は、使用する項目数の範囲内で疾病病態の全体を包括しなければならない。ICD の目的は、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録・分析、解釈および比較を行う</p>	<p>2. 疾病及び関連保健問題の国際統計分類の解説</p> <p>2.1 目的及び適用範囲</p> <p>疾病分類は、ある一定の基準にしたがって疾病の本質を割り振る分類法のシステムと定義することができる。これには多くの分類軸が考えられるが、作成する統計の用途によって一つの分類軸が選択される。疾病の統計分類は、使用する項目数の範囲内で疾病病態の全体を包括しなければならない。ICD の目的は、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録・分析、解釈及び比較を行う</p>	<p>2. Description of the International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems</p> <p>2.1 Purpose and applicability</p> <p>A classification of diseases can be defined as a system of categories to which morbid entities are assigned according to established criteria. The purpose of the ICD is to permit the systematic recording analysis, interpretation and comparison of mortality and morbidity data collected in different countries or areas and at different times. The ICD is used to translate diagnoses of diseases and other health problems from words into an alphanumeric code, which permits easy storage, retrieval and</p>

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)								
	うことである。ICD は、データの保存、回収および分析を容易にするために、疾病の診断およびその他の保健問題を、言葉から英数字コードに翻訳するために使用される。	ことである。ICD は、データの保存、回収及び分析を容易にするために、疾病の診断及びその他の保健問題を、言葉から英数字コードに翻訳するために使用される。	analysis of the data.								
5	新生物に対する形態コードは、「系統的医学用語」(SNOMED) (参考文献 2. 参照) のコードと同じである。この SNOMED は、腫瘍の用語およびコーディングのマニュアルの 1968 年版 (参考文献 3. 参照) および「系統的病理学用語<国際病理学用語コード>」(SNOP) (参考文献 4. 参照) から由来したものである。形態コードは 5 桁であり; はじめの 4 桁は組織学的な型を分類し、第 5 桁は新生物の性状(悪性、上皮内、良性等)を分類する。ICD-O の形態コードはまた、ICD-10 の第 2 巻(内容例示表) および第 3 巻(索引表) にも使用されている。ICD-O 第 2 版から ICD-10 への変換表が作られており、利用することができる。	新生物に対する形態コードは、「系統的医学用語」(SNOMED) (参考文献 2. 参照) のコードと同じである。この SNOMED は、腫瘍の用語及びコーディングのマニュアルの 1968 年版 (参考文献 3. 参照) 及び「系統的病理学用語<国際病理学用語コード>」(SNOP) (参考文献 4. 参照) から由来したものである。形態コードは 5 桁であり; はじめの 4 桁は組織学的な型を分類し、第 5 桁は新生物の性状(悪性、上皮内、良性等)を分類する。ICD-O の形態コードはまた、ICD-10 の第 1 巻(内容例示表) 及び第 3 巻(索引表) にも使用されている。ICD-O 第 3 版から ICD-10 への変換表が作られており、利用することができる。	The morphology code for neoplasms has been adopted by the <i>Systematized nomenclature of medicine</i> (SNOMED) (2), which was derived from the 1968 edition of the <i>Manual of tumour nomenclature and coding</i> (MOTNAC) (3) and the <i>Systematized nomenclature of pathology</i> (SNOP) (4). The morphology code has five digits; the first four digits identify the histological type and the fifth the behaviour of the neoplasm (malignant, <i>in situ</i> , benign, etc.). The ICD-O morphology code also appear in Volume 1 of ICD-10 and are added to the relevant entries in Volume 3, the Alphabetical Index. Tables are available for the conversion of the ICD-O third edition codes to ICD-10.								
6	<p>3.1.3 病態に対する二つのコード 「剣印および星印」システム</p> <p>剣印 (+) および星印 (*) システムは、統計表章のための選択的な分類を提供するが、ICD の原則は、剣印コードが一次コードであって、常に使用しなければならないコードであるということである。もし他の表章方法もまた必要とされる場合には、「追加して」使用するための星印コードを使用する準備をしなければならない。コーディングには、星印コードは決して単独で使用してはならない。剣印コードを取り入れている統計は、疾病および死亡のデータの表章および医学的ケアのその他の側面についての伝統的な分類に従っている。</p>	<p>3.1.3 病態に対する二つのコード 「剣印及び星印」システム</p> <p>剣印 (+) 及び星印 (*) システムは、統計表章のための選択的な分類を提供するが、ICD の原則は、剣印コードが一次コードであって、常に使用しなければならないコードであるということである。もし他の表章方法もまた必要とされる場合には、「追加して」使用するための星印コードを使用する準備をしなければならない。コーディングには、星印コードは決して単独で使用してはならない。ただし、疾病コーディングにおいては、疾病の発現が医療の焦点である場合、剣印と星印の順を逆転させてもよい。剣印コードを取り入れている統計は、疾病および死亡のデータの表章及び医学的ケアのその他の側面についての伝統的な分類に従っている。</p>	<p>3.1.3 Two codes for certain conditions <i>The “dagger and asterisk” system</i></p> <p>While the dagger and asterisk system provides alternative classifications for the presentation of statistics, it is a principle of the ICD that the dagger code is the primary code and must always be used. Provision should be made for the asterisk code to be used in addition if the alternative method of presentation may also be required. For coding, the asterisk code must never be used alone. <u>However, for morbidity coding, the dagger and asterisk sequence may be reversed when the manifestation of a disease is the primary focus of care.</u> Statistics incorporating the dagger codes conform with the traditional classification for presenting data on mortality and morbidity and other aspects of medical care.</p>								
7	<p>3.1.3 病態に対する二つのコード (2) 記号が項目のタイトルに付いているが、選択的コードが付いていない場合は、その項目に分類されるすべての用語は二重の分類を受けるが、それらは別々のコード</p> <p>A17.8† その他の神経系結核</p> <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="vertical-align: middle;"> <ul style="list-style-type: none"> 脳 (G07*) 結核 結核性: </td> <td style="vertical-align: middle; font-size: 2em; padding: 0 10px;">}</td> <td style="vertical-align: middle; font-size: 2em; padding: 0 10px;">の</td> <td style="vertical-align: middle;"> <ul style="list-style-type: none"> 結核腫 脊髄 (G07*) </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 髄膜脳炎 (G05.0*) ・ 脊髄炎 (G05.0*) ・ 脳膿瘍 (G07*) ・ 多発(性)ニューロパチ<シ> - (G63.0*) 	<ul style="list-style-type: none"> 脳 (G07*) 結核 結核性: 	}	の	<ul style="list-style-type: none"> 結核腫 脊髄 (G07*) 	<p>3.1.3 病態に対する二つのコード (2) 記号が項目のタイトルに付いているが、選択的コードが付いていない場合は、その項目に分類されるすべての用語は二重の分類を受けるが、それらは別々のコードを持っている(それらは各用語に付いている)。たとえば、</p> <p>A17.8† その他の神経系結核</p> <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="vertical-align: middle;"> <ul style="list-style-type: none"> 脳 (G07*) 結核 結核性: </td> <td style="vertical-align: middle; font-size: 2em; padding: 0 10px;">}</td> <td style="vertical-align: middle; font-size: 2em; padding: 0 10px;">の</td> <td style="vertical-align: middle;"> <ul style="list-style-type: none"> 結核腫 脊髄 (G07*) </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 髄膜脳炎 (G05.0*) ・ 脊髄炎 (G05.0*) ・ 脳膿瘍 (G07*) ・ 多発(性)ニューロパチ<シ> - (G63.0*) <p><u>A18.1† 腎尿路生殖器系の結核</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 脳 (G07*) 結核 結核性: 	}	の	<ul style="list-style-type: none"> 結核腫 脊髄 (G07*) 	<p>3.1.3 Two codes for certain conditions</p> <p>A18.1† Tuberculosis of genitourinary system Tuberculosis of</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ bladder (N33.0*) ・ cervix (N74.0*) ・ kidney (N29.1) ・ male genital organs (N51.-*) ・ ureter (N29.1*) <p>Tuberculous female pelvic inflammatory disease (N74.1*)</p>
<ul style="list-style-type: none"> 脳 (G07*) 結核 結核性: 	}	の	<ul style="list-style-type: none"> 結核腫 脊髄 (G07*) 								
<ul style="list-style-type: none"> 脳 (G07*) 結核 結核性: 	}	の	<ul style="list-style-type: none"> 結核腫 脊髄 (G07*) 								

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		結核： ・ 腎 (N29.1*) ・ 尿管 (N29.1*) ・ 膀胱 (N33.0*) ・ 男性生殖器 (N51.-*) ・ 子宮頸部 (部) (N74.0*) 結核性女性骨盤炎症性疾患 (N74.1*)	
8	3.1.4 内容例示表で使用されている取り決め 「他に分類されないもの<NEC>」 「他に分類されないもの」という語句は、3桁分類項目のタイトルで使用された場合、掲載されている病態のある特定の変異型が、分類のその他の箇所に現れるかもしれないという警告として働いている。たとえば： J16 その他の感染病原体による肺炎、他に分類されないもの この分類項目は、J16.0 クラミジア肺炎および J16.8 その他の明示された感染病原体による肺炎を含んでいる。多くのその他の項目が、明示された感染病原体による肺炎のために、第 X 章 (たとえば、J10-J15) およびその他の章 (たとえば、P23.-先天性肺炎) に用意されている。J18 肺炎、病原体不詳は、感染病原体が記載されていない肺炎を受け入れるために作られている。	3.1.4 内容例示表で使用されている取り決め 「他に分類されないもの<NEC>」 「他に分類されないもの」という語句は、3桁分類項目のタイトルで使用された場合、掲載されている病態のある特定の変異型が、分類のその他の箇所に現れるかもしれないという警告として働いている。たとえば： J16 その他の感染病原体による肺炎、他に分類されないもの この分類項目は、J16.0 クラミジア肺炎及び J16.8 その他の明示された感染病原体による肺炎を含んでいる。多くのその他の項目が、明示された感染病原体による肺炎のために、第 X 章 (たとえば、J09-J15) 及びその他の章 (たとえば、P23.-先天性肺炎) に用意されている。J18 肺炎、病原体不詳は、感染病原体が記載されていない肺炎を受け入れるために作られている。	3.1.4 Conventions used in the tabular list <i>“Not elsewhere classified”</i> The words “not elsewhere classified”, when used in a three-character category title, serve as a warning that certain specified variants of the listed conditions may appear in other parts of the classification. For example: J16 Pneumonia due to other infectious organisms, not elsewhere classified This category includes J16.0 Chlamydial pneumonia and J16.8 Pneumonia due to other specified infectious organisms. Many other categories are provided in Chapter X (for example, J09-J15) and other chapters (for example, P23.- Congenital pneumonia) for pneumonias due to specified infectious organisms. J18 Pneumonia, organism unspecified, accommodates pneumonias for which the infectious agent is not stated.
9	4.1.4 死亡統計製表のための原死因の選択手順 単一の死因が死亡診断書に記載された場合は、この原因が製表に使用される。	4.1.4 死亡統計製表のための原死因の選択手順 単一の死因が死亡診断書に記載された場合は、 <u>単一死因ルールの適用により</u> 、この原因が製表に使用される。	4.1.4 Procedures for selection of the underlying cause of death for mortality tabulation When only one cause of death is reported, this cause is used for tabulation <u>by application of the one cause rule.</u>
10	4.1.4 死亡統計製表のための原死因の選択手順 ... それゆえ、次の段階は、上記の状況を取り扱う修正ルールAから F (4.1.9 節を参照) のうち一つ以上のものが...	4.1.4 死亡統計製表のための原死因の選択手順 ... それゆえ、次の段階は、上記の状況を取り扱う修正ルールAから <u>DF</u> (4.1.9 節を参照) のうち一つ以上のものが...	4.1.4 Procedures for selection of the underlying cause of death for mortality tabulation ... The next step therefore is to determine whether one or more of the modification rules A to <u>DF</u> (see section....)
11	4.1.5 原死因選択のルール	4.1.5 起点となる先行原因原死因選択のルール	4.1.5 Rules for selection of the originating antecedent cause
12	4.1.5 原死因選択のルール 上下の因果関係 (sequence) <ul style="list-style-type: none"> ● 高血圧 (症) (による) 脳卒中 (による) 昏睡である。 	4.1.5 原死因選択のルール 上下の因果関係 (sequence) <ul style="list-style-type: none"> ● 高血圧 (症) (による) 脳卒中 (による) 昏睡である。 <p>死亡診断書に複数の因果関係がある場合、最初に記載された因果関係の起因を確認することが重要である。そうでなければ、選択ルール及び修正ルールを正しく適用できなくなり、正しい原死因を選択することも</p>	4.1.5 Rules for selection of the originating antecedent cause <i>Sequence</i> Hypertension (leading to) cerebrovascular accident (leading to) coma; <u>If the death certificate has more than one sequence it is important to identify the originating cause of the first mentioned sequence. Otherwise, the selection and modification rules cannot be applied properly and the underlying cause will not be correctly selected.</u>

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		<p>できない。</p> <p>最初に記載された因果関係の起因を確認するには、直接死因（I 欄の最上欄に記載された病態）から始める。その下欄に記載された初めの病態が直接死因を引き起こし得るかを確認する。引き起こし得ない場合、その同じ欄に記載された次の病態が直接死因を引き起こし得るかを確認する。そのようにして、直接死因を引き起こし得る病態が見つかるまで続ける。見つかった病態を、以下においては「仮の起因」と呼ぶ。直接死因を引き起こし得る病態が記載されていない場合、直接死因で終わる因果関係は存在しないことになる。</p> <p>仮の起因を確定できたが、その下欄に他の病態の記載がある場合、下欄でも同じ作業を繰り返す。今度は、上記の方法で確定できた仮の起因から始めて、その下欄に記載された初めの病態が仮の起因を引き起こし得るかを確認する。引き起こし得ない場合、その同じ欄に記載された次の病態が仮の起因を引き起こし得るかを確認する。そのようにして、仮の起因を引き起こし得る病態が見つかるまで続ける。そのようにして見つかった病態が、新たな仮の起因になる。</p> <p>仮の起因を確定できたが、その下欄にさらに他の病態の記載がある場合、新たな仮の起因が見つかる限り、同じ作業を繰り返す。仮の起因を引き起こし得る病態がなくなったら、その最後の仮の起因が最初に記載された因果関係の起因として確定される。</p> <p>下図では、競合する因果関係の例を示した。黒の太い線で囲われた灰色の円が、最初に記載された因果関係の原死因を示す。</p> 	<p>To identify the originating cause of the first mentioned sequence, begin with the direct cause of death (the first mentioned condition on the highest used line in Part I). Establish whether the first condition listed on the next line in Part I can cause the direct cause of death. If it cannot, establish if the second condition listed on this line can cause the direct cause of death. Continue until a condition has been found that could cause the direct cause of death. This condition is referred to in the following as the “temporary originating cause”. If no condition is found that can cause the direct cause of death, there is no sequence ending with the direct cause of death.</p> <p>If a temporary originating cause has been found but there are conditions reported on lower lines in Part I, repeat the procedure for the next line. Now start with the temporary originating cause identified in the previous step. Establish whether the first condition listed on the next lower line in Part I can cause the temporary originating cause. If it cannot, establish if the second condition listed on that line can cause the temporary originating cause. Continue until a condition has been found that could cause the temporary originating cause. This is the new temporary originating cause.</p> <p>If a new temporary originating cause has been found but there are still conditions reported on lower lines in Part I, repeat the procedure for as long as a new temporary originating cause can be identified. When no condition can be found that could cause the temporary originating cause, the last identified temporary originating cause is also the originating cause of the first mentioned sequence.</p> <p>The following illustrate examples of competing sequences. The underlying cause of the first mentioned sequence is in grey with a bold black circle.</p> 
13	<p>4.1.7 一般原則と選択ルール</p> <p>一般原則</p> <p>死亡診断書に複数の病態が記載されている場合は、I 欄の最下欄に単独で記載された病態が、その上欄に記載されたすべての病態を引き起こす可能性がある場合に限り、その病態を選ぶ。</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルール</p> <p>一般原則</p> <p>死亡診断書に複数の病態が記載されている場合は、I 欄の最下欄に単独で記載された病態が、その上欄に記載されたすべての病態を引き起こす可能性がある場合に限り、その病態を選ぶ。</p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p><i>General Principle</i></p> <p>When more than one condition is entered on the certificate, select the condition entered alone on the lowest used line of Part I only if it could have given rise to all the conditions entered above it.</p> <p>Example 8: I (a) Cerebral haemorrhage (b) Hypertension</p>

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>例 8: I (a) 脳出血 (b) 高血圧 (症) (c) 慢性腎盂腎炎 (d) 前立腺腺腫</p> <p>前立腺腺腫 (N40) を選ぶ。</p>	<p>例 8: I (a) 脳出血 (b) 高血圧 (症) (c) 慢性腎盂腎炎 (d) 前立腺腺腫</p> <p>前立腺腺腫 (N40D29.1) を選ぶ。</p>	<p>(c) Chronic pyelonephritis (d) Prostatic adenoma</p> <p>Select prostatic adenoma (N40D29.1).</p>
14	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>一般原則</p> <p>例 10: I (a) 気管支肺炎 II 二次性貧血および慢性リンパ性白血病 気管支肺炎を選ぶ。しかし、ルール 3 もまた適用する；例 26 参照。</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例</p> <p>一般原則</p> <p>例 10: I (a) 気管支肺炎 II 二次性貧血および慢性リンパ性白血病 気管支肺炎を選ぶ。しかし、ルール 3 もまた適用する；例 26 参照。</p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p><i>General Principle</i></p> <p>...</p> <p><i>Example 10: I(a) Bronchopneumonia</i> II Secondary anaemia and chronic lymphatic leukaemia</p> <p>Select bronchopneumonia. But Rule 3 also applies; see Example 26</p>
15	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>ルール 3</p> <p>A00 – B19、B25 – B49、B58 – B64、B99 または J12 – J18 に分類されるあらゆる感染症は、HIV病が記載されれば、その直接影響によるものと考えべきである。</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例</p> <p>ルール 3</p> <p>A00 – B19、B25 – B49、B58 – B64、B99 または J12 – J18 に分類される4.2.2 A.(a)節に列挙する感染症以外のあらゆる感染症は、HIV病が記載されれば、その直接影響によるものと考えべきである。</p>	<p>4.1.7</p> <p>Rule 3</p> <p>Any infectious disease classifiable to A00 B19, B25 B49, B58 B64, B99 or J12 J18 aside from those listed in section 4.2.2 A.(a) should be considered to be a direct consequence of reported HIV disease.</p>
16	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>ルール 3</p> <p>...</p> <p>他の病態から直接生じたと推定できる場合について</p> <p>A00 – B19、B25 – B49、B58 – B64、B99 または J12 – J18 に分類されるあらゆる感染症は...</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>ルール 3</p> <p>...</p> <p>他の病態から直接生じたと推定できる場合について</p> <p>A00 – B19、B25 – B49、B58 – B64、B99 又は J12 – J18 に分類されるあらゆる感染症は...</p> <p>いくつかの病態については、死亡より 4 週間以内に医療行為が行われた場合には、その直接影響によるものであると考えられる。付録@@に、そのような合併症を記載する。</p> <p>付録@@：医療行為の直接影響によると思われる病態のリスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 本リストに掲載する病態は、死亡より 4 週間以内に医療行為が行われた場合には、その直接影響によるものであると考えべきである。 医療行為が行われる前にその病態がすでに存在していた証拠がある場合は、医療行為の直接影響によるものであると考えべきではない。 	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p>...</p> <p>Rule 3</p> <p>...</p> <p><i>Assumed direct consequences of another condition</i></p> <p>...</p> <p>Any infectious diseases ...</p> <p><u>Certain conditions should be considered direct consequences of a medical procedure, if the procedure was carried out within four weeks before death. A list of such complications can be found in Appendix @@.</u></p> <p><u>Appendix @@: List of conditions to be considered direct consequences of medical procedures</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <u>A condition on the list should be considered a direct consequence of a medical procedure if the procedure was carried out within four weeks before death.</u> <u>No condition on the list should be considered a direct consequence of a procedure if there is evidence that the condition was present before the procedure was carried out.</u> <u>A condition flagged with "OCPR" (Other Cause of Procedure</u>

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「OCPR」（医療行為が行われる別の理由の記載が必要（Other Cause of Procedure Required））の符号のある病態は、医療行為が行われる別の理由が死亡診断書に記載されているときのみ医療行為の結果として生じたものとする。 「DSAP」（医療行為後に発生したことを示す期間の記載が必要（Duration Stated, developed After Procedure））の符号のある病態は、その病態が医療行為後に起きたことを明確に示す証拠があるときのみ医療行為の結果として生じたものとする。 癒着については、医療行為が癒着の起きた部位に対して行われた場合、死亡より4週間以内でなくても、その医療行為の結果として生じたものとする。ただし、その医療行為が死亡より1年以上前に行われた場合は、医療ケアの続発・後遺症のコードを使用する。 <p><u>感染症</u></p> <p><u>膿瘍</u> OCPR</p> <p><u>菌血症</u></p> <p><u>瘻孔</u> OCPR 及び同じ部位に対して行われた医療行為の場合のみ</p> <p><u>ガス壊疽</u></p> <p><u>感染, 溶血性</u></p> <p><u>感染 NOS</u> DSAP</p> <p><u>手術創感染</u></p> <p><u>敗血症</u></p> <p><u>出血, 溶血</u></p> <p><u>凝固障害, 消費性</u></p> <p><u>DIC（汎発性血管内凝固）</u></p> <p><u>出血 NOS</u></p> <p><u>胃腸出血</u> OCPR</p> <p><u>腹腔内出血</u> OCPR</p> <p><u>直腸出血</u> OCPR</p> <p><u>手術創出血</u></p> <p><u>明示された部位の出血</u> 同じ部位に対して行われた医療行為の場合のみ</p> <p><u>吐血</u> OCPR</p> <p><u>血腫</u> OCPR</p> <p><u>血胸</u> OCPR</p> <p><u>溶血</u></p>	<p>Required) should be considered an obvious consequence of a procedure only if another reason for performing the procedure is indicated on the certificate.</p> <ul style="list-style-type: none"> A condition flagged with “DSAP” (Duration Stated, developed After Procedure) should be considered an obvious consequence of a medical procedure only if there is clear evidence that the condition developed after the procedure. Adhesions should be considered an obvious consequence of a procedure in the same site or region, even after more than four weeks. If the procedure was performed more than one year before death, use the codes for sequelae of medical care. <p><u>Infections</u></p> <p><u>abscess</u> OCPR</p> <p><u>bacteraemia</u></p> <p><u>fistula</u> OCPR, and for a procedure of the same site or region only</p> <p><u>gas gangrene</u></p> <p><u>infection, haemolytic</u></p> <p><u>infection NOS</u> DSAP</p> <p><u>infection in surgical wound</u></p> <p><u>septicaemia</u></p> <p><u>septic</u></p> <p><u>Haemorrhage, haemolysis</u></p> <p><u>coagulopathy, consumption</u></p> <p><u>DIC (disseminated intravascular coagulation)</u></p> <p><u>haemorrhage NOS</u></p> <p><u>haemorrhage, gastrointestinal</u> OCPR</p> <p><u>haemorrhage, intraabdominal</u> OCPR</p> <p><u>haemorrhage, rectal</u> OCPR</p> <p><u>haemorrhage, surgical wound</u></p> <p><u>haemorrhage, specified site</u> for a procedure of the same site or region only</p> <p><u>haematemesis</u> OCPR</p> <p><u>haematoma</u> OCPR</p> <p><u>haemothorax</u> OCPR</p> <p><u>haemolysis</u></p> <p><u>melaena</u> OCPR</p> <p><u>Cardiac complications</u></p> <p><u>arrest, cardiac</u></p> <p><u>arrhythmia NOS</u> DSAP</p> <p><u>asystole</u></p> <p><u>block, cardiac</u> DSAP</p> <p><u>failure/insufficiency, cardiac</u></p> <p><u>fibrillation, atrial</u> DSAP</p> <p><u>fibrillation, ventricular</u></p>

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p><u>下血</u> O CPR</p> <p><u>心臓の合併症</u></p> <p><u>心停止</u></p> <p><u>不整脈 NOS</u> DSAP</p> <p><u>無収縮</u></p> <p><u>心ブロック</u> DSAP</p> <p><u>心不全</u></p> <p><u>心房細動</u> DSAP</p> <p><u>心室細動</u></p> <p><u>梗塞 (心筋)</u></p> <p><u>虚血, 心筋 (急性)</u></p> <p><u>破裂, 心筋</u></p> <p><u>脳血管及びその他の脳の合併症</u></p> <p><u>脳卒中</u> DSAP</p> <p><u>脳損傷 (無酸素性)</u> DSAP</p> <p><u>脳塞栓症</u> DSAP</p> <p><u>脳出血</u> DSAP</p> <p><u>脳梗塞</u> DSAP</p> <p><u>脳虚血</u> DSAP</p> <p><u>脳又は脳血管の病変</u> DSAP</p> <p><u>髄膜炎</u> DSAP</p> <p><u>脳浮腫</u> DSAP</p> <p><u>脳卒中</u> DSAP</p> <p><u>脳血栓</u> DSAP</p> <p><u>その他の血管の合併症</u></p> <p><u>循環停止</u></p> <p><u>塞栓症 (動脈)</u></p> <p><u>塞栓症 (脂肪、空気)</u></p> <p><u>塞栓症 (肺)</u></p> <p><u>塞栓症 (静脈)</u></p> <p><u>循環不全</u></p> <p><u>低血圧</u></p> <p><u>肺梗塞</u></p> <p><u>梗塞 (すべての部位)</u></p> <p><u>閉塞 (すべての部位)</u></p>	<p><u>infarction (myocardial)</u></p> <p><u>ischaemia, myocardial (acute)</u></p> <p><u>rupture, myocardial</u></p> <p><i>Cerebrovascular and other cerebral complications</i></p> <p><u>apoplexy</u> DSAP</p> <p><u>damage, brain (anoxic)</u> DSAP</p> <p><u>embolism, cerebral</u> DSAP</p> <p><u>haemorrhage, cerebral/intracranial</u> DSAP</p> <p><u>infarction, cerebral</u> DSAP</p> <p><u>ischaemia, cerebral/cerebrovascular</u> DSAP</p> <p><u>lesion, cerebral/cerebrovascular</u> DSAP</p> <p><u>meningitis</u> DSAP</p> <p><u>oedema, cerebral</u> DSAP</p> <p><u>stroke</u> DSAP</p> <p><u>thrombosis, cerebral</u> DSAP</p> <p><i>Other vascular complications</i></p> <p><u>arrest, circulatory</u></p> <p><u>embolism (arterial)</u></p> <p><u>embolism, fat/air</u></p> <p><u>embolism, pulmonary</u></p> <p><u>embolism, venous</u></p> <p><u>failure/insufficiency, circulatory</u></p> <p><u>hypotension</u></p> <p><u>infarction, pulmonary</u></p> <p><u>infarction (any site)</u></p> <p><u>occlusion (any site)</u></p> <p><u>phlebitis (any site)</u></p> <p><u>phlebothrombosis (any site)</u></p> <p><u>thrombophlebitis (any site)</u></p> <p><u>thrombosis, arterial</u></p> <p><u>thrombosis, venous</u></p> <p><u>thrombosis NOS (any site)</u></p> <p><i>Respiratory complications</i></p> <p><u>alkalosis and acidosis, respiratory</u></p> <p><u>ARDS (adult respiratory distress syndrome)</u></p> <p><u>arrest, respiratory</u></p> <p><u>aspiration</u></p> <p><u>atelectasis</u></p> <p><u>bronchitis</u> DSAP</p> <p><u>effusion, pleura</u></p> <p><u>empyema</u> OCPR</p> <p><u>fistula, bronchopleural or oesophageal</u> OCPR</p> <p><u>failure/insufficiency, pulmonary</u></p> <p><u>failure/insufficiency, respiratory</u></p>

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		静脈炎 (すべての部位) 静脈血栓症 (すべての部位) 血栓性静脈炎 (すべての部位) 動脈血栓症 静脈血栓症 血栓症 NOS (すべての部位) 呼吸器の合併症 呼吸性アルカローシス及び呼吸性アシドーシス ARDS (成人呼吸促迫症候群) 呼吸停止 誤嚥 無気肺 気管支炎 DSAP 胸水 蓄膿 O CPR 気管胸膜瘻又は食道瘻 O CPR 肺動脈弁閉鎖不全症 呼吸不全 縦隔炎 上気道閉塞 O CPR 喉頭浮腫 O CPR 肺水腫又は肺の血液沈滞 肺炎 気胸 O CPR 胃腸の合併症 O CPR O CPR 腹腔内膿瘍 O CPR 便秘 O CPR 胃拡張 O CPR 循環障害又は胃腸障害 O CPR 腸間膜塞栓症 O CPR 肝不全 DSAP 胆汁瘻、腸瘻、直腸瘻 O CPR イレウス O CPR 腸虚血 O CPR 胃腸壊死 O CPR 腸 (機械的) 閉塞 O CPR	mediastinitis obstruction, upper airway O CPR oedema, laryngeal O CPR oedema/hypostasis, pulmonary pneumonia pneumothorax O CPR <i>Gastrointestinal complications</i> abscess, intra-abdominal O CPR constipation O CPR dilatation, gastric O CPR disorder, circulatory, gastrointestinal O CPR embolism, mesenterial O CPR failure, hepatic DSAP fistula, biliary/ bowel/rectovaginal O CPR ileus O CPR ischaemia, intestinal O CPR necrosis, gastrointestinal O CPR obstruction, bowel (mechanical) O CPR peritonitis O CPR ulcer, gastrointestinal (stress) O CPR volvulus O CPR <i>Renal and urinary complications</i> anuria failure/insufficiency, renal fistula, urinary O CPR infection, urinary pyelonephritis DSAP retention, urine stricture, urethra O CPR uraemia urosepsis <i>Other complications</i> <u>Adhesions for a procedure of the same site or region only</u> shock NOS shock, anaphylactic "complication(s)" NOS crisis, thyrotoxic DSAP displacement, prosthesis failure, (multi)organ gangrene insufficiency, anastomosis O CPR necrosis, fat/wound O CPR syndrome, compartment O CPR seizures (epileptic) DSAP

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		<p>腹膜炎 O CPR</p> <p>胃腸（ストレス）潰瘍 O CPR</p> <p>軸捻 O CPR</p> <p>腎臓及び泌尿器の合併症</p> <p>無尿</p> <p>腎不全</p> <p>尿瘻 O CPR</p> <p>尿路感染</p> <p>腎盂腎炎 DSAP</p> <p>尿閉</p> <p>尿道狭窄 O CPR</p> <p>尿毒症</p> <p>尿路性敗血症</p> <p>その他の合併症</p> <p>癒着 同じ部位に対して行われた医療行為の場合のみ</p> <p>ショック NOS</p> <p>アナフィラキシーショック</p> <p>「合併症」NOS</p> <p>甲状腺クリーゼ DSAP</p> <p>人工補装具のずれ</p> <p>（多）臓器不全</p> <p>壊疽</p> <p>不十分な吻合 O CPR</p> <p>脂肪壊死、創傷の壊死 O CPR</p> <p>コンパートメント症候群 O CPR</p> <p>てんかん発作 DSAP</p> <p>褥瘡性潰瘍</p>	<p><u>ulcer, decubitus</u></p>
17	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>ルール 3</p> <p>…</p> <p>いくつかの術後合併症…</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>ルール 3</p> <p>…</p> <p><u>クロストリジウム・ディフィシルによる全腸炎は、抗生物質療法の結果として生じたものとして想定されるべきである。</u></p> <p>いくつかの術後合併症…</p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p>…</p> <p>Rule 3</p> <p>…</p> <p><u>Enterocolitis due to <i>Clostridium difficile</i> should be assumed to be an obvious consequence of antibiotic therapy.</u></p> <p>Certain postoperative complications…</p>
18	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例</p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p>

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		心不全 (I50.-) 及び心疾患, 詳細不明 (I51.9) は、他の心臓の病態の明らかな結果と考えるべきである。	<u>Heart failure (I50.-) and unspecified heart disease (I51.9) should be considered an obvious consequence of other heart conditions.</u>
19	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>...</p> <p>ルール 3</p> <p>...</p> <p>心不全 (I50.-) および心疾患, 詳細不明 (I51.9) は、他の心臓の病態の結果として生じたと考えるべきである。</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>...</p> <p>ルール 3</p> <p>...</p> <p>心不全 (I50.-) 及び心疾患, 詳細不明 (I51.9) は、他の心臓の病態の結果として生じたと考えるべきである。</p> <p><u>食道静脈瘤 (I85.-) は、B18.-、K70.-、K73.-、K74.-及び K76.-に分類される肝疾患の結果として生じたと考えるべきである。</u></p>	<p>Section 4.1.7</p> <p>...</p> <p>Rule 3</p> <p>...</p> <p>Heart failure (I50.-) and unspecified heart disease (I51.9) should be considered an obvious consequence of other heart conditions.</p> <p><u>Oesophageal varices (I85.-) should be considered an obvious consequence of liver diseases classifiable to B18.-, K70.-, K73.-, K74.-, and K76.-.</u></p>
20	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>ルール 3</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例</p> <p>ルール 3</p> <p><u>肺水腫 (J81) は、心疾患 (肺性心疾患を含む)、肺実質に影響のある病態 (肺感染症、誤嚥及び吸入、呼吸窮迫症候群、高地、毒素循環等)、体液過剰を起こす病態 (腎不全、低アルブミン血症等)、肺循環に影響のある先天奇形 (肺静脈の先天性狭窄等) の明らかな結果と考えるべきである。</u></p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p>Rule 3</p> <p>Pulmonary edema (J81) should be considered an obvious consequence of heart disease (including pulmonary heart disease); of conditions affecting the lung parenchyma, such as lung infections, aspiration and inhalation, respiratory distress syndrome, high altitude, and circulating toxins; of conditions causing fluid overload, such as renal failure and hypoalbuminemia; and of congenital anomalies affecting the pulmonary circulation, such as congenital stenosis of pulmonary veins.</p>
21	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>ルール 3</p> <p>J12-J18 にある各種肺炎は、免疫機能を低下させる病態の結果として生じたと考えるべきである。J18.0 と J18.2-J18.9 項目の肺炎は明らかに次の疾患によって生じたと考えられる。すなわち、悪性腫瘍や栄養失調 (症) といった消耗性疾患、脳出血や脳塞栓症といった麻痺を起こす疾患、また、呼吸器疾患や、伝染病、重症な損傷があげられる。J18.0 および J18.2-J18.9、J69.0 と J69.8 項目の肺炎は嚥下機能に影響を与える疾患が原因となっていると考えるべきである。</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例</p> <p>ルール 3</p> <p><u>大葉性肺炎, 詳細不明 (J18.1) は、アルコール使用による依存症候群 (F10.2) の明らかな結果と考えるべきである。J12-J18 にある各種肺炎は、免疫機能を低下させる病態の結果として生じたと考えるべきである。J15.0-15.6、J15.8-J15.9、J16.8、J18.0 と J18.2-J18.9 項目の肺炎は次の疾患の明らかな結果と考えるべきである。すなわち、悪性腫瘍や栄養失調 (症) といった消耗性疾患、脳出血や脳塞栓症といった麻痺を起こす疾患、また、呼吸器疾患や、伝染病、重症な損傷があげられる。J15.0-15.6、J15.8-J15.9、J16.8、J18.0 及び J18.2-J18.9、J69.0 と J69.8 項目の肺炎は、嚥下機能に影響を与える疾患の明らかな結果と考えるべきである。J18.0-の肺炎 (大葉性肺炎を除く) が不動症又は可動性の減少とともに記載された場合は、J18.2 にコードするべきである。</u></p> <p>J12-J18 にある各種肺炎は、免疫機能を低下させる病態の結果として生じたと考えるべきである。J18.0 と J18.2-J18.9 項目の肺炎は明らかに次の疾患によって生じたと考えられる。すなわち、悪性腫瘍や栄養失調 (症) といった消耗性疾患、脳出血や脳塞栓症といった麻痺を起こす疾患、また、呼吸器疾患や、伝染病、重症な損傷があげられる。J18.0 および J18.2-J18.9、J69.0 と J69.8 項目の肺炎は嚥下機能に</p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p>Rule 3</p> <p><u>Lobar pneumonia, unspecified (J18.1) should be considered an obvious consequence of dependence syndrome due to use of alcohol (F10.2). Any pneumonia in J12-J18 should be considered an obvious consequence of conditions that impair the immune system. Pneumonia in <u>J15.0-15.6, J15.8-J15.9, J16.8, J18.0 and J18.2-J18.9</u> should be considered an obvious consequence of wasting diseases (such as malignant neoplasm and malnutrition) and diseases causing paralysis (such as cerebral haemorrhage or thrombosis), as well as serious respiratory conditions, communicable diseases, and serious injuries. Pneumonia in <u>J15.0-15.6, J15.8-J15.9, J16.8, J18.0 and J18.2-J18.9, J69.0, and J69.8</u> should also be considered an obvious consequence of conditions that affect the process of swallowing. <u>Pneumonia in J18.- (except lobar pneumonia) reported with immobility or reduced mobility should be coded to J18.2.</u></u></p>

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		影響を与える疾患が原因となっていると考えるべきである。	
22	<p>「塞栓症」という記載または診断を受けた疾病は、静脈血栓症、静脈炎、血栓性静脈炎、弁膜性心疾患、分娩またはその他の手術によって、直接生じたと考えられる。ただし、どこで血栓が形成され、その血栓がどこに飛んで塞栓となったかをはっきり明記していなければならない。静脈血栓症または血栓性静脈炎は肺塞栓症の原因となりうる。左心系（僧房弁や大動脈弁）で作られた血栓、または心房細動による血栓は体内循環の動脈塞栓症の原因となりうる。同様に、右心系の弁（三尖弁や肺動脈弁）周囲に形成される血栓は、肺（動脈）塞栓の原因となりうる。また、左心系の血栓は心臓の中隔欠損症を通して右心系に通過する場合がある。</p>	<p>その他の一般的な続発性の病態（肺塞栓症、褥瘡性潰瘍、膀胱炎等）は、次の疾患の明らかな結果と考えるべきである。すなわち、悪性腫瘍や栄養失調（症）といった消耗性疾患、脳出血や脳塞栓症といった麻痺を起こす疾患、また、伝染病や重症な損傷があげられる。ただし、そのような続発性の病態は、呼吸器疾患の明らかな結果と考えるべきではない。</p> <p>「塞栓症」という記載または診断を受けた疾病は、静脈血栓症、静脈炎、血栓性静脈炎、弁膜性心疾患、分娩またはその他の手術によって、直接生じたと考えられる。ただし、どこで血栓が形成され、その血栓がどこに飛んで塞栓となったかをはっきり明記していなければならない。静脈血栓症または血栓性静脈炎は肺塞栓症の原因となりうる。左心系（僧房弁や大動脈弁）で作られた血栓、または心房細動による血栓は体内循環の動脈塞栓症の原因となりうる。同様に、右心系の弁（三尖弁や肺動脈弁）周囲に形成される血栓は、肺（動脈）塞栓の原因となりうる。また、左心系の血栓は心臓の中隔欠損症を通して右心系に通過する場合がある。</p>	<p><u>Other common secondary conditions (such as pulmonary embolism, decubitus ulcer, and cystitis) should be considered an obvious consequence of wasting diseases (such as malignant neoplasms and malnutrition) and diseases causing paralysis (such as cerebral haemorrhage or thrombosis) as well as communicable diseases, and serious injuries. However, such secondary conditions should not be considered an obvious consequence of respiratory conditions.</u></p>
23	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示 ... ルール 3 ... 他の病態から直接生じたと推定できる場合について</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示 ... ルール 3 ... 他の病態から直接生じたと推定できる場合について</p> <p>アシドーシス (E87.2); その他の明示された代謝障害 (E88.8); その他の単ニューロパチ<シ>- (G58.-); 多発 (性) ニューロパチ<シ>- , 詳細不明 (G62.9); 末梢神経系のその他の障害 (G64); その他の原発性筋障害 (G71.8) において他に記載のない筋萎縮、自律神経系の障害, 詳細不明 (G90.9)、神経痛及び神経炎, 詳細不明 (M79.2); 虹彩毛様体炎 (H20.9); 白内障, 詳細不明 (H26.9); 網脈絡膜の炎症, 詳細不明 (H30.9); 網膜血管閉塞症 (H34); 背景網膜症及び網膜血管変化 (H35.0); その他の増殖性網膜症 (H35.2); 網膜出血 (H35.6); 網膜障害, 詳細不明 (H35.9); 末梢血管疾患, 詳細不明 (I73.9); (四) 肢の動脈のアテローム<じゅく<粥>状>硬化 (症) (I70.2); 関節炎, 詳細不明 (M13.9); ネフローゼ症候群 (N03- N05); 慢性腎臓病, 詳細不明 (N18.9 N18.-); 詳細不明の腎不全 (N19); 詳細不明の萎縮腎 (N26); 腎及び尿管の障害, 詳細不明 (N28.9) における腎疾患、ならびに持続性たんぱく<蛋白>尿, 詳細不明 (N39.1); え<壊>疽, 他に分類されないもの (R02); 昏睡, 詳細不明 (R40.2); 及びその他の明示された血液化学的異常所見 (R79.8) でアセトン血症、高窒素血症、及び関連する病態に関連するものについては、糖尿病 (E10-E14) の明らかな結果と考えるべきである。</p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p>Rule 3 ... <i>Assumed direct consequences of another condition</i></p> <p><u>Acidosis (E87.2); Other specified metabolic disorders (E88.8); Other mononeuropathies (G58.-); Polyneuropathy, unspecified (G62.9); Other disorders of peripheral nervous system (G64); amyotrophy not otherwise specified in Other primary disorders of muscles (G71.8). Disorder of autonomic nervous system, unspecified (G90.9), and Neuralgia and neuritis, unspecified (M79.2); Iridocyclitis (H20.9); Cataract, unspecified (H26.9); Chorioretinal inflammation, unspecified (H30.9); Retinal vascular occlusions (H34); Background retinopathy and retinal vascular changes (H35.0); Other proliferative retinopathy (H35.2); Retinal haemorrhage (H35.6); Retinal disorder, unspecified (H35.9); Peripheral vascular disease, unspecified (I73.9); Atherosclerosis of arteries of extremities (I70.2); Arthritis, unspecified (M13.9); Nephrotic syndrome (N03–N05); Chronic kidney disease, (N18.-); Unspecified kidney failure (N19); Unspecified contracted kidney (N26); renal disease in Disorder of kidney and ureter, unspecified (N28.9) and Persistent proteinuria, unspecified (N39.1); Gangrene, not elsewhere classified (R02); Coma, unspecified (R40.2); and Other specified abnormal findings of blood chemistry (R79.8) for acetonemia, azotemia, and related conditions should be considered an obvious consequence of Diabetes mellitus (E10–E14).</u></p>

2010

2013

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		アシドーシス (E87.2); その他の明示された代謝障害 (E88.8); その他の単ニューロパチ<シ>- (G58.-); 多発(性)ニューロパチ<シ>- , 詳細不明 (G62.9); 末梢神経系のその他の障害 (G64); その他の原発性筋障害 (G71.8) において他に記載のない筋萎縮; 自律神経系の障害, 詳細不明 (G90.9); 神経痛および神経炎, 詳細不明 (M79.2) ; 虹彩毛様体炎 (H20.9); 白内障、詳細不明 (H26.9); 網脈絡膜の炎症, 詳細不明 (H30.9); 網膜血管閉塞症 (H34); 背景網膜症及び網膜血管変化 (H35.0); その他の増殖性網膜症 (H35.2); 網膜出血 (H35.6); 網膜障害, 詳細不明 (H35.9) 末梢血管疾患, 詳細不明 (I73.9) ; (四) 肢の動脈のアテローム<じゅく<粥>状>硬化(症) (I70.2); 末梢血管疾患, 詳細不明 (I73.9); リポイド類え<壊>死症, 他に分類されないもの (L92.1); 下肢の潰瘍, 他に分類されないもの (L97); 関節炎, 詳細不明 (M13.9); 神経痛及び神経炎, 詳細不明 (M79.2); 骨障害, 詳細不明 (M89.9); ネフローゼ症候群 (N03- N05); 慢性腎疾患 (N18.-); 詳細不明の腎不全 (N19); 詳細不明の萎縮腎 (N26); 腎及び尿管の障害, 詳細不明 (N28.9) における腎疾患; 一ならびに持続性たんぱく<蛋白>尿, 詳細不明 (N39.1); え<壊>疽, 他に分類されないもの (R02); 昏睡, 詳細不明 (R40.2); 及びその他の明示された血液化学的異常所見 (R79.8) でアセトン血症、高窒素血症、及び関連する病態に関連するものについては、糖尿病 (E10-E14) の明らかな結果と考えるべきである。	Acidosis (E87.2); Other specified metabolic disorders (E88.8); Other mononeuropathies (G58.-); Polyneuropathy, unspecified (G62.9); Other disorders of peripheral nervous system (G64); Myoneural disorder, unspecified (G70.9); Amyotrophy not otherwise specified in Other primary disorders of muscles (G71.8), Disorder of autonomic nervous system, unspecified (G90.9), Iridocyclitis, unspecified (H20.9); Cataract, unspecified (H26.9); Chorioretinal inflammation, unspecified (H30.9); Retinal vascular occlusions (H34); Back ground retinopathy and retinal vascular changes (H35.0); Other proliferative retinopathy (H35.2); Retinal haemorrhage (H35.6); Retinal disorder, unspecified (H35.9); Paralytic strabismus, unspecified (H49.9); Blindness and low vision (H54); Atherosclerosis of arteries of extremities (I70.2); Peripheral vascular disease, unspecified (I73.9); Angiopathy in Other and unspecified disorders of circulatory system (I99); Dermatitis, unspecified (L30.9); Necrobiosis lipoidica, not elsewhere classified (L92.1); Ulcer of lower limb, not elsewhere classified (L97); Arthritis, unspecified (M13.9); Neuralgia and neuritis, unspecified (M79.2); Disorder of bone, unspecified (M89.9); Nephrotic syndrome (N03- N05); Chronic kidney disease (N18.-); Unspecified kidney failure (N19); Unspecified contracted kidney (N26); Renal disease in Disorder of kidney and ureter, unspecified (N28.9); Urinary tract infection site not specified (N39.0); Persistent proteinuria, unspecified (N39.1); Gangrene, not elsewhere classified (R02); Coma, unspecified (R40.2); and Acetonemia, azotemia, and related conditions in Other specified abnormal findings of blood chemistry (R79.8) should be considered an obvious consequence of Diabetes mellitus (E10-E14).
24		下記のリストに記載の分類項目は、消耗性疾患及び麻痺を起こす病態の明らかな結果と考えるべきである。「M」の符号のある分類項目の病態は、最右欄に記載のコーディングの前提条件を満たした場合のみ、「消耗性疾患及び麻痺を起こす疾患」のリストに記載の病態の明らかな結果と考えるべきである。	Conditions in the following categories should be considered obvious consequences of the conditions listed in the “wasting and paralyzing diseases” list. Conditions in categories flagged with an ‘M’ (Maybe) should be considered obvious consequences of the conditions listed in the “wasting and paralyzing diseases” list only if they meet the prerequisite for code assignment noted in the final column of the table.

Code(s)	Description	Condit ional Respo nse	Qualifier
E86	Volume depletion		
G81-G83	Other paralytic syndromes		
I26.0-I26.9	Pulmonary embolism		
I74.2-I74.4	Arterial embolism and thrombosis of extremities		
I80.1-I80.3	Phlebitis and thrombophlebitis of lower extremities		
I80.9	Phlebitis and thrombophlebitis of unspecified site		
I82.9	Embolism and thrombosis of unspecified vein		

コード	記載	条件的 対応	条件
E86	体液量減少 (症)		
G81 - G83	その他の麻痺症候群		
I26.0 - I26.9	肺塞栓症		
I74.2 - I74.4	(四) 肢の動脈の塞栓症及び血栓症		
I80.1 - I80.3	下肢の静脈炎及び血栓 (性) 静脈炎		
I80.9	部位不明の静脈炎及び血栓 (性) 静脈炎		
I82.9	部位不明の静脈の塞栓症及び血栓症		

K55.0	Acute vascular disorder of intestine	M	The condition in K55.0 must be specified as an embolism
K56.4	Other impaction of intestine		
K59.0	Constipation		
L89	Decubitus ulcer		
N10-N12	Tubulo-interstitial nephritis	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder
N17, N19	Renal failure <u>Kidney disease, acute or unspecified</u>		
N28.0	Ischaemia and infarction of kidney	M	The condition in N28.0 must be specified as an embolism of the renal artery
N30.0-N30.2	Cystitis, acute, interstitial and other chronic	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder
N30.9	Cystitis, unspecified	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder
N31	Neuromuscular dysfunction of bladder, not elsewhere classified		
N34.0-N34.2	Urethritis	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder
N35.1-N35.9	Urethral stricture (non-traumatic)	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder
N39.0	Urinary tract infection, site not specified	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder

K55.0	腸の急性血行障害	M	K55.0 の病態が塞栓症であることの記載がなければならぬ
K56.4	その他の腸かん<嵌>頓		
K59.0	便秘		
L89	じょく<褥>瘡性潰瘍		
N10-N12	尿細管間質性腎炎	M	麻痺又は膀胱の制御不能を起こす疾患
N17, N19	腎臓病、急性又は詳細不明		
N28.0	腎虚血及び腎梗塞	M	N28.0 の病態が腎動脈の塞栓症であることの記載がなければならぬ
N30.0-N0.2	膀胱炎、急性、間質性、その他の慢性	M	麻痺又は膀胱の制御不能を起こす疾患
N30.9	膀胱炎、詳細不明	M	麻痺又は膀胱の制御不能を起こす疾患
N31	神経因性膀胱（機能障害）、他に分類されないもの		
N34.0-N34.2	尿道炎	M	麻痺又は膀胱の制御不能を起こす疾患
N35.1-N35.9	尿道狭窄（非外傷性）	M	麻痺又は膀胱の制御不能を起こす疾患
N39.0	尿路感染症、部位不明	M	麻痺又は膀胱の制御不能を起こす疾患

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
25	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>...</p> <p>ルール 3</p> <p>...</p> <p>体循環の動脈塞栓症は、～心房細動の結果生じたのは明白である、と考えるはならない。</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>...</p> <p>ルール 3</p> <p>...</p> <p>体循環の動脈塞栓症は、～心房細動の結果生じたのは明白である、と考えるはならない。</p> <p><u>詳細不明の認知症 (F03) 及びアルツハイマー <Alzheimer> 病 (G30.-) は、明らかにダウン <Down> 症候群 (Q90.-) の結果として生じたものと考えべきである。</u></p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p>...</p> <p>Rule 3</p> <p>...</p> <p>Arterial embolism in the systemic circulation . . . an obvious consequence of atrial fibrillation</p> <p><u>Unspecified dementia (F03) and Alzheimer' s disease (G30.-) should be considered an obvious consequence of Down' s syndrome(Q90.-).</u></p>
26	<p>腎炎症候群は、猩紅熱やレンサ球菌性の咽頭痛といったレンサ球菌感染症によって生じたと考えられる。急性腎不全が、尿路感染症の発症前から存在していたという証拠がなければ、尿路感染症によって生じたと考える。</p>	<p>腎炎症候群は、猩紅熱や連鎖球菌性の咽頭炎といった連鎖球菌感染症の結果と推定できるによって生じたと考えられる。</p> <p><u>急性腎不全が、尿路感染症の発症前から存在していたという証拠がなければ、尿路感染症の明らかな結果と推定すべきであるによって生じたと考える。</u></p>	<p>Nephritic syndrome may be assumed to be a consequence of any streptococcal infection (scarlet fever, streptococcal sore throat, etc).</p> <p><u>Acute renal failure should be assumed as an obvious consequence of a urinary tract infection, provided that there is no indication that the renal failure was present before the urinary tract infection.</u></p>
27	<p>脱水は、腸管感染症の影響によるものと考えられる。</p>	<p>脱水は、腸管感染症の影響によるもの<u>明らかな結果</u>と考えられるべきである。</p> <p><u>新生児原発性無気肺 (P28.0) は、先天的な腎臓の病態 (Q60, Q61.0-Q61.1, Q61.3-Q61.9, Q62.1, Q62.3, Q62.4) 、前期破水 (P01.1) 、及び羊水過少症 (P01.2) の直接影響によるものと推定すべきである。</u></p> <p><u>前期破水又は羊水過少症により影響を受けた胎児及び新生児 (P01.1-P01.2) は、先天的な腎臓の病態 (Q60, Q61.0-Q61.1, Q61.3-Q61.9, Q62.1, Q62.3, Q62.4) の直接影響によるものと推定すべきである。</u></p>	<p>Dehydration may be should be considered assumed to be a <u>an obvious consequence of any intestinal infectious disease.</u></p> <p><u>Primary atelectasis of newborn (P28.0) should be considered an obvious consequence of congenital kidney conditions (Q60, Q61.0-Q61.1, Q61.3-Q61.9, Q62.1, Q62.3, Q62.4), premature rupture of membranes (P01.1), and oligohydramnios (P01.2).</u></p> <p><u>Fetus and newborn affected by premature rupture of membranes or oligohydramnios (P01.1-P01.2) should be assumed to be a direct consequence of congenital kidney conditions (Q60, Q61.0-Q61.1, Q61.3-Q61.9, Q62.1, Q62.3, Q62.4).</u></p>
28	<p>ある臓器についての手術は、死亡診断書のどこかに記載された同じ臓器のすべての外科的病態 (悪性新生物または損傷のような病態) の直接影響と考えるべきである。</p>	<p>ある臓器についての手術は、死亡診断書のどこかに記載された同じ臓器のすべての外科的病態 (悪性腫瘍新生物又は損傷のような病態) の直接影響によるもの<u>と考えるべきである。</u></p> <p><u>出血は、抗凝固薬の中毒又は過剰量の明らかな結果と考えるべきである。ただし、中毒又は過剰量の記載がない場合は、出血が、抗凝固療法の明らかな結果と考えるべきではない。胃出血は、ステロイド、アスピリン及び非ステロイド性抗炎症薬 (NSAID)の明らかな結果と考えるべきである。</u></p> <p><u>精神遅滞は、P00-P04 (母体側要因ならびに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児) 、P05 (胎児発育遅延<成長遅滞> 及び胎児栄養失調 (症)) 、P07 (妊娠期間短縮及び低出産体重に関連する障害、他に分類されないもの) 、P10 (出産損傷による頭蓋内裂傷及び出血) 、P11.0 (出産損傷による脳浮腫) 、P11.1</u></p>	<p>An operation on a given organ should be considered a direct consequence of any surgical condition (such as malignant tumour or injury) of the same organ reported anywhere on the certificate.</p> <p><u>Haemorrhage should be considered an obvious consequence of anticoagulant poisoning or overdose. However, haemorrhage should not be considered an obvious consequence of anticoagulant therapy without mention of poisoning or overdose. Gastric haemorrhage should be considered an obvious consequence of steroid, aspirin, and nonsteroidal anti-inflammatory drugs (NSAIDs).</u></p> <p><u>Mental retardation should be considered an obvious consequence of perinatal conditions in P00-P04 (Fetus and newborn affected by maternal factors and by complications of pregnancy, labour and delivery), P05 (Slow fetal growth and fetal malnutrition), P07 (Disorders related to short gestation and low birth weight, not elsewhere classified), P10 (Intracranial laceration and haemorrhage due to birth injury), P11.0 (Cerebral oedema due to birth injury), P11.1 (Other specified brain damage due to birth injury), P11.2</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
		(出産損傷によるその他の明示された脳傷害)、P11.2(出産損傷による詳細不明の脳傷害)、P11.9(中枢神経系の出産損傷、詳細不明)、P15.9(出産損傷、詳細不明)、P20(子宮内低酸素症)、P21(出生時仮死)、P35(先天性ウイルス疾患)、P37(その他の先天性感染症及び寄生虫病)、P52(胎児及び新生児の頭蓋内非外傷性出血)、P57(核黄疸)、P90(新生児のけいれん<痙攣>)及びP91(新生児の脳のその他の機能障害)における、周産期の病態の明らかな結果と考えるべきである。	(Unspecified brain damage due to birth injury), P11.9 (Birth injury to central nervous system, unspecified), P15.9 (Birth injury, unspecified), P20 (Intrauterine hypoxia), P21 (Birth asphyxia), P35 (Congenital viral diseases), P37 (Other congenital infectious and parasitic diseases), P52 (Intracranial nontraumatic haemorrhage of fetus and newborn), P57 (Kernicterus), P90 (Convulsions of newborn) and P91 (Other disturbances of cerebral status of newborn).]
29	4.1.7 一般原則と選択ルール の例示 ルール3 例 25 : I (a) 脳のトキソプラズマ症および帯状疱疹 [帯状ヘルペス] (b) バーキット<Burkitt>リンパ腫、ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病	4.1.7 一般原則と選択ルール の例示 ルール3 例 25 : I (a) 脳のトキソプラズマ症及び帯状疱疹 [帯状ヘルペス] II (b) バーキット<Burkitt>リンパ腫、ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病	4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules Rule 3 Example 25: I (a) Cerebral toxoplasmosis and herpes zoster II (b) Burkitt lymphoma, HIV disease
30	4.1.9 修正ルール ルールA 老衰およびその他の診断名不明確の病態 選ばれた死因が不明確である場合や、死亡診断書に記載する上で他に分類される病態である場合には、その不明確な診断名が記載されなかったものとして、死因を選びなおす。ただし、その病態によってコード番号が変わる場合は、その病態を考慮する。次の内容は、不明確な診断名がついた病態と考えられる。: I46.9 心停止(詳細不明); I95.9 低血圧(詳細不明); I99 循環器疾患(その他および詳細不明) J96.0 急性呼吸不全; J96.9 呼吸不全(詳細不明); P28.5 新生児の呼吸不全; R00-R94 および R96-R99 (症状、徴候、および異常臨床所見、異常検査所見で、他に分類されないもの)。ただし、R95(乳幼児突然死症候群)は含まれない。	4.1.9 修正ルール ルールA 老衰及びその他の診断名不明確の病態 選ばれた死因が不明確である場合や、死亡診断書に記載する上で他に分類される病態である場合には、その不明確な診断名が記載されなかったものとして、死因を選びなおす。ただし、その病態によってコード番号が変わる場合は、その病態を考慮する。次の内容は、不明確な診断名がついた病態と考えられる。: I46.1 (心臓性突然死<急死>と記載されたもの; I46.9 心停止<、詳細不明>; I95.9 低血圧、<詳細不明>; I99 循環器疾患、<その他および詳細不明> J96.0 急性呼吸不全; J96.9 呼吸不全、<詳細不明>; P28.5 新生児の呼吸不全; R00-R94 及び R96-R99 (症状、徴候、及び異常臨床所見、異常検査所見で、他に分類されないもの)。ただし、R95(乳幼児突然死症候群)は含まれない。 <u>死亡診断書に記載されている他のすべての病態が診断名不明確の病態又は軽微な病態である場合は、死因を選びなおすことはしない。つまり、このような場合にはルールAは適用されない。</u>	4.1.9 The modification rules <i>Rule A. Senility and other ill-defined conditions</i> Where the selected cause is ill-defined and a condition classified elsewhere is reported on the certificate, reselect the cause of death as if the ill-defined condition had not been reported, except to take account of that condition if it modifies the coding. The following conditions are regarded as ill-defined: I46.1 (Sudden cardiac death, so described); I46.9 (Cardiac arrest, unspecified); I95.9 Hypotension, unspecified); I99 (Other and unspecified disorders of circulatory system); J96.0 (Acute respiratory failure); J96.9 (Respiratory failure, unspecified); P28.5 (Respiratory failure of newborn); R00-R94 or R96-R99 (Symptoms, signs and abnormal clinical and laboratory findings, not elsewhere classified). Note that R95 (Sudden infant death) is not regarded as ill-defined. <u>If all other conditions reported on the certificate are ill-defined or trivial, the cause of death should not be reselected. That is, Rule A does not apply.</u>
31	4.1.9 修正ルール ルールB 軽微な病態 選ばれた死因が、それ自身では死因になりそうもない軽微な病態で、同時にもっと重篤な病態が記載されている場合には、その軽微な病態が記載されなかったものとして、原死因を選びなおす(ただし、不明確な病態や軽微な病態は除く)。もし軽微な病態を治療して副作用が生じ、その結果死亡したとしたら、副作用を死因として選ぶ。	4.1.9 修正ルール ルールB 軽微な病態 選ばれた死因が、それ自身では死因になりそうもない軽微な病態で(付録 10.1 参照)、同時にもっと重篤な病態が記載されている場合には、その軽微な病態が記載されなかったものとして、原死因を選びなおす(ただし、不明確な病態や軽微な病態は除く)。もし軽微な病態を治療して副作用が生じ、その結果死亡したとしたら、副作用を死因として選ぶ。	4.1.9 The modification rules <i>Rule B. Trivial conditions</i> Where the selected cause is a trivial condition unlikely to cause death (see Appendix 7.1) and a more serious condition (any condition except an ill-defined or another trivial condition) is reported, reselect the underlying cause... ..of the trivial condition, select the adverse reaction.

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
32	<p>4.1.9 修正ルール</p> <p>ルール C 連鎖 (Linkage) ...</p> <p>選ばれた死因が死亡診断書上の他の病態と複数の連鎖関係をもつ場合は、もし最初に選ばれた死因が記載されなかったならば、選ばれたであろう病態に連鎖する。適用可能ないかなる連鎖についても応用する。</p>	<p>4.1.9 修正ルール</p> <p>ルール C 連鎖 (Linkage) ...</p> <p>選ばれた死因が死亡診断書上の他の病態と複数の連鎖関係をもつ場合は、もし最初に選ばれた死因が記載されなかったならば、選ばれたであろう病態に連鎖する。適用可能ないかなる連鎖についても応用する。</p> <p><u>起点となる先行原因よりも選ばれた病態を具体的に表現する連合コードがある場合は、連合コードを使うべきである。ただし、連合コードが起点となる先行原因のコードとは異なる 3 桁分類項目にある場合、連合コードは起点となる先行原因を明確に特定しなければならない。複合コーディングにおいては、可能なすべての詳細を保持するようにすべきである。</u></p>	<p>4.1.9 The modification rules</p> <p><i>Rule C. Linkage</i> ...</p> <p>Where a conflict in linkages occurs, link with the condition that would have been selected if the cause initially selected had not been reported. Make any further linkage that is applicable.</p> <p><u>Combination codes which express a more specific variety of the condition selected than the originating antecedent cause should be used when available. However, when the combination code is in a different three-character category than the code for the originating antecedent cause, the code for the combination must clearly identify the originating antecedent cause. All possible detail should be retained in the multiple cause coding.</u></p>
33	<p>4.1.9 修正ルール</p> <p>ルール E 疾病の初期および晩期の状態</p> <p>選ばれた死因が、疾病の初期の状態、それと同じ疾患のさらに進んだ病期が死亡診断書に記載されていた場合は、このさらに進んだ病期にコードする。このルールは、分類に特別に規定された場合を除いては、「急性」型による「慢性」型の疾患と記載された場合には適用されない。</p>	<p>4.1.9 修正ルール</p> <p>ルール E 疾病の初期および晩期の状態</p> <p>選ばれた死因が、疾病の初期の状態、それと同じ疾患のさらに進んだ病期が死亡診断書に記載されていた場合は、このさらに進んだ病期にコードする。このルールは、分類に特別に規定された場合を除いては、「急性」型による「慢性」型の疾患と記載された場合には適用されない。</p>	<p>4.1.9 The modification rules</p> <p><i>Rule E. Early and late stages of disease</i> Where the selected cause is an early stage of a disease and a more advanced stage of the same disease is reported on the certificate, code to the more advanced stage. This rule does not apply to a “chronic” form reported as due to an “acute” form unless the classification gives special instructions to that effect.</p>
34	<p>4.1.9 修正ルール</p> <p>...</p> <p>ルール F 続発・後遺症(Sequelae)</p> <p>選ばれた死因が、独立した「～の続発・後遺症」という項目が設けられている病態の初期の型である場合で、死亡がその病態の活動期に起きたものではなく、むしろこの病態の残遺的影響のために起きたという証拠がある場合には、適当な「～の続発・後遺症」の項目にコードする。</p>	<p>4.1.9 修正ルール</p> <p>...</p> <p>ルール F 続発・後遺症(Sequelae)</p> <p>選ばれた死因が、独立した「～の続発・後遺症」という項目が設けられている病態の初期の型である場合で、死亡がその病態の活動期に起きたものではなく、むしろこの病態の残遺的影響のために起きたという証拠がある場合には、適当な「～の続発・後遺症」の項目にコードする。</p>	<p>4.1.9 The modification rules</p> <p>...</p> <p><i>Rule F. Sequelae</i> Where the selected cause is an early form of a condition for which the classification provides a separate “Sequelae of...” category, and there is evidence that death occurred from residual effects of its condition rather than from those of its active phase, code to the appropriate “Sequelae of...” category.</p>
35	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルール A 老衰およびその他の診断名不明確の病態</p> <p>選ばれた死因が、R95(乳幼児突然死症候群)を除く第XVIII章(症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの)に分類され、R00-R94またはR96-R99以外に分類される病態が死亡診断書に記載された場合は、第XVIII章に分類される病態が記載されなかったもの</p>	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルール A 老衰及びその他の診断名不明確の病態</p> <p>選ばれた死因が、R95(乳幼児突然死症候群)を除く第XVIII章(症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの)に分類され、R00-R94またはR96-R99以外に分類される病態が死亡診断書に記載された場合は、第XVIII章に分類される病態が記載されなかったもの</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules</p> <p><i>Rule A. Senility and other ill-defined conditions</i></p> <p>Where the selected cause is ill-defined and a condition classified elsewhere is reported on the certificate, reselect the cause of death as if the ill-defined condition had not been reported, except to take account of that condition if it modifies the coding. The following conditions are regarded as ill-defined: I46.1 (Sudden cardiac death, so described); I46.9 (Cardiac arrest,</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	として死因を選びなおす。ただし、その病態がコーディングを修飾している場合は、その病態を考慮する。	<p>のとしそ不明確である場合や、死亡診断書に記載する上で他に分類される病態である場合には、その診断名不明確な病態が記載されなかったものとして、死因を選びなおす。ただし、その病態がコーディングを修飾している場合は、その病態を考慮する。次の内容は、不明確な診断名がついた病態と考えられる。： I46.1 (心臓性突然死<急死>と記載されたもの)； I46.9 心停止,詳細不明； I95.9 低血圧,詳細不明； I99 循環器疾患,その他および詳細不明； J96.0 急性呼吸不全； J96.9 呼吸不全,詳細不明； P28.5 新生児の呼吸不全； R00-R94 及びR96-R99 (症状、徴候、及び異常臨床所見、異常検査所見で、他に分類されないもの)。ただし、R95 (乳幼児突然死症候群) は含まれない。</p> <p>死亡診断書に記載されている他のすべての病態が診断名不明確の病態又は軽微な病態である場合は、死因を選びなおすことはしない。つまり、このような場合にはルールAは適用されない。</p>	<p>unspecified); I95.9 (Hypotension, unspecified); I99 (Other and unspecified disorders of circulatory system); J96.0 (Acute respiratory failure); J96.9 (Respiratory failure, unspecified); P28.5 (Respiratory failure of newborn); R00-R94 and R96-R99 (Symptoms, signs and abnormal clinical and laboratory findings, not elsewhere classified). Note that R95 (Sudden infant death syndrome) is not regarded as ill-defined.</p> <p><u>If all other conditions reported on the certificate are ill-defined or trivial, the cause of death should not be reselected. That is, Rule A does not apply.</u></p>
36	<p>4.1.10 修正ルール例</p> <p>ルール B 軽微な病態</p> <p>(A) 選ばれた死因が、それ自身では死因になりそうもない軽微な病態であり、さらに重篤な病態 (不明確または他の軽微な病態を除く病態) が記載されている場合は、その軽微な病態が記載されなかったものとして、原死因を選びなおす。</p>	<p>4.1.10 修正ルール例</p> <p>ルール B 軽微な病態</p> <p>(A) 選ばれた死因が、それ自身では死因になりそうもない軽微な病態であり (付録 10.1 参照)、さらに重篤な病態 (不明確又は他の軽微な病態を除く病態) が記載されている場合は、その軽微な病態が記載されなかったものとして、原死因を選びなおす。</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules</p> <p>Rule B. Trivial conditions</p> <p>(A) Where the selected cause is a trivial condition unlikely to cause death (see Appendix 7.1) and a more serious condition (any condition except an ill-defined or another trivial condition) is reported, reselect the underlying cause as if the trivial condition had not been reported.</p>
37	<p>4.1.10 修正ルール例</p> <p>ルール C 連鎖 (Linkage) ...</p> <p>選ばれた死因が死亡診断書上の他の病態と複数の連鎖関係をもつ場合は、もし最初に選ばれた死因が記載されなかったならば、選ばれたであろう病態に連鎖する。適用可能ないかなる連鎖についても応用する。</p>	<p>4.1.10 修正ルール例</p> <p>ルール C 連鎖 (Linkage) ...</p> <p>選ばれた死因が死亡診断書上の他の病態と複数の連鎖関係をもつ場合は、もし最初に選ばれた死因が記載されなかったならば、選ばれたであろう病態に連鎖する。適用可能ないかなる連鎖についても応用する。</p> <p><u>起点となる先行原因よりも選ばれた病態を具体的に表現する連合コードがある場合は、連合コードを使うべきである。ただし、連合コードが起点となる先行原因のコードとは異なる 3 桁分類項目にある場合、連合コードは起点となる先行原因を明確に特定しなければならない。複合コーディングにおいては、可能なすべての詳細を保持するようにすべきである。</u></p> <p>例 43: I (a) 心筋症 (b) アルコール依存症 アルコール性心筋症 (I42.6) にコードする。</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules</p> <p>Rule C. Linkage</p> <p>...</p> <p>Where a conflict in linkages occurs, link with the condition that would have been selected if the cause initially selected had not been reported. Make any further linkage that is applicable.</p> <p><u>Combination codes which express a more specific variety of the condition selected than the originating antecedent cause should be used when available. However, when the combination code is in a different three-character category than the code for the originating antecedent cause, the code for the combination must clearly identify the originating antecedent cause. All possible detail should be retained in the multiple cause coding.</u></p> <p>Example 43: I (a) Cardiomyopathy (b) Alcoholism Code alcoholic cardiomyopathy (I42.6)</p> <p>Example 4344 I (a) Intestinal obstruction</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>例 43: I (a) 腸閉塞 (b) 大腿<股>ヘルニア 閉塞を伴う大腿<股>ヘルニア (K41.3) にコードする。</p>	<p>例 4344: I (a) 腸閉塞 (b) 大腿<股>ヘルニア 閉塞を伴う大腿<股>ヘルニア (K41.3) にコードする。</p> <p>例 45: I (a) てんかん発作 (b) 慢性アルコール中毒</p> <p><u>慢性アルコール中毒 (F10.2) にコードする。特殊なてんかん症候群は G40.5 として索引に記載されているが、この連合コードは起点となる先行原因を特定していない。</u></p>	<p>(b) Femoral hernia Code to femoral hernia with obstruction (K41.3).</p> <p><i>Example 45:</i> I (a) Epileptic attack (b) Chronic alcoholism</p> <p><u>Code to chronic alcoholism (F10.2). Special epileptic syndromes are indexed to G40.5, but that combination code does not identify the originating antecedent cause.</u></p>
38	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルールC 連鎖 (Linkage)</p> <p>例 55: I (a) ニューモシスチス・カリニ肺炎 (b) HIV</p> <p>B 20.6 の HIV にコードする。一般原則により、ニューモシスチス・カリニ肺炎を伴った HIV 疾患にコードする。</p> <p>例 56: I (a) 呼吸不全 (b) HIV</p> <p>B 24 にコードする。呼吸不全は不明確な病態であり、B20—B23 のどの分類項目にも適用しない。</p>	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルールC 連鎖 (Linkage)</p> <p>例 55: I (a) ニューモシスチス・カリニ[jirovecii]肺炎 (b) HIV</p> <p>B 20.6 の HIV にコードする。一般原則により、ニューモシスチス・カリニ[jirovecii]肺炎を伴った HIV 疾患にコードする。</p> <p>例 56: I (a) 呼吸不全 (b) HIV</p> <p>B 24 にコードする。呼吸不全は不明確な病態であり、B20—B23 のどの分類項目にも適用しない。</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules</p> <p>Rule C. Linkage</p> <p><i>Example 55:</i> I (a) Pneumocystis carinii [jirovecii] pneumonia (b) HIV</p> <p>links 80 Code to B20.6. HIV, selected by the General Principle, with Pneumocystis carinii [jirovecii] pneumonia.</p>
39	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルールD 特異性 (原死因の明確化)</p> <p>例 62: I (a) 心膜炎 (b) 尿毒症および肺炎</p> <p>尿毒症性心膜炎 (N18.8) にコードする。ルール1により尿毒症が選ばれる (例 14 参照) が、これは心膜炎を修飾する。</p>	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルールD 特異性 (原死因の明確化)</p> <p>例 62: I (a) 心膜炎 (b) 尿毒症及び肺炎</p> <p>尿毒症性心膜炎 (N18.58) にコードする。ルール1により尿毒症が選ばれる (例 14 参照) が、これは心膜炎を修飾する。</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules</p> <p>Rule D. Specificity</p> <p><i>Example 60:</i> I (a) Pericarditis (b) Uraemia and pneumonia</p> <p>Code to uraemic pericarditis (N18.58 5). Uraemia, selected by Rule 1 (see Example 14), modifies the pericarditis.</p>
40	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルールE 疾病の初期および晩期の状態 選ばれた死因が、疾病の初期の状態、それと同じ疾患のさらに進んだ病期が死亡診断書に記載されていた場合は、このさらに進ん</p>	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルールE 疾病の初期および晩期の状態 選ばれた死因が、疾病の初期の状態、それと同じ疾患のさらに進んだ病期が死亡診断書に記載されていた場合は、このさらに進ん</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules</p> <p>Rule E. Early and late stages of disease Where the selected cause is an early stage of a disease and a more advanced stage of the same disease is reported on the certificate, code to the more advanced stage. This rule does not apply to a “chronic” form</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
	<p>だ病期にコードする。このルールは、分類に特別に規定された場合を除いて、「急性」型による「慢性」型の疾患と記載された場合には適用されない。</p> <p>例 63 : I (a) 第三期梅毒 (b) 初期梅毒 第三期梅毒(A52.9)にコードする。</p> <p>例 64 : I (a) 妊娠子かん<癩> (b) 子かん<癩>前症 妊娠子かん<癩> (O15.0)にコードする。</p> <p>例 65 : I (a) 慢性心筋炎 (b) 急性心筋炎 急性心筋炎(I40.9)にコードする。</p> <p>例 66 : I (a) 慢性腎炎 (b) 急性腎炎 これには、特別の規定があるため、慢性腎炎、詳細不明(N03.9)にコードする。</p>	<p>だ病期にコードする。このルールは、分類に特別に規定された場合を除いて、「急性」型による「慢性」型の疾患と記載された場合には適用されない。</p> <p>例 63 : I (a) 第三期梅毒 (b) 初期梅毒 第三期梅毒(A52.9)にコードする。</p> <p>例 64 : I (a) 妊娠子かん<癩> (b) 子かん<癩>前症 妊娠子かん<癩> (O15.0)にコードする。</p> <p>例 65 : I (a) 慢性心筋炎 (b) 急性心筋炎 急性心筋炎(I40.9)にコードする。</p> <p>例 66 : I (a) 慢性腎炎 (b) 急性腎炎 これには、特別の規定があるため、慢性腎炎、詳細不明(N03.9)にコードする。</p>	<p>reported as due to an “acute” form unless the classification gives special instructions to that effect. <i>Example 63:</i> I (a) Tertiary syphilis - (b) Primary syphilis Code to tertiary syphilis (A52.9). <i>Example 64:</i> I (a) Eclampsia during pregnancy - (b) Pre-eclampsia Code to eclampsia during pregnancy (O15.0). <i>Example 65:</i> I (a) Chronic myocarditis - (b) Acute myocarditis Code to acute myocarditis (I40.9). <i>Example 66:</i> I (a) Chronic nephritis - (b) Acute nephritis Code to chronic nephritis, unspecified (N03.9), as special instruction is given to this effect.</p>
41	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>...</p> <p>ルール F 続発・後遺症(Sequelae) 選ばれた死因が、独立した「～の続発・後遺症」という項目が設けられている病態の初期の型である場合で、死亡がその病態の活動期に起きたものではなく、むしろこの病態の残遺的影響のために起きたという証拠がある場合には、適当な「～の続発・後遺症」の項目にコードする。 「～の続発・後遺症」の分類項目は下記のとおりである：B90-B94、E64.-、E68、G09、I69、O97 および Y85-Y89。</p> <p>例 67 : I (a) 肺線維症 (b) 陳旧性肺結核 呼吸器結核の続発・後遺症(B90.9)にコードする。</p> <p>例 68 : I (a) 気管支肺炎 (b) 脊柱湾曲 (c) 小児期のくる病 くる病の続発・後遺症(E64.3)にコードする。</p> <p>例 69 : I (a) 水頭症 (b) 結核性髄膜炎 結核性髄膜炎の続発・後遺症(B90.0)にコードする。</p>	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>...</p> <p>ルール F 続発・後遺症(Sequelae) 選ばれた死因が、独立した「～の続発・後遺症」という項目が設けられている病態の初期の型である場合で、死亡がその病態の活動期に起きたものではなく、むしろこの病態の残遺的影響のために起きたという証拠がある場合には、適当な「～の続発・後遺症」の項目にコードする。 「～の続発・後遺症」の分類項目は下記のとおりである：B90-B94、E64.-、E68、G09、I69、O97 および Y85-Y89。</p> <p>例 67 : I (a) 肺線維症 (b) 陳旧性肺結核 呼吸器結核の続発・後遺症(B90.9)にコードする。</p> <p>例 68 : I (a) 気管支肺炎 (b) 脊柱湾曲 (c) 小児期のくる病 くる病の続発・後遺症(E64.3)にコードする。</p> <p>例 69 : I (a) 水頭症 (b) 結核性髄膜炎 結核性髄膜炎の続発・後遺症(B90.0)にコードする。</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules</p> <p>...</p> <p>Rule F. Sequelae - Where the selected cause is an early form of a condition for which the classification provides a separate “Sequelae of...” category, and there is evidence that death occurred from residual effects of its condition rather than from those of its active phase, code to the appropriate “Sequelae of...” category. - “Sequelae of...” categories are as follows: B90-B94, E64., E68, G09, I69, O97 and Y85-Y87. - <i>Example 67:</i> I (a) Pulmonary fibrosis - (b) Old pulmonary tuberculosis Code to sequelae of respiratory tuberculosis (B90.9). <i>Example 68:</i> I (a) Bronchopneumonia - (b) Curvature of spine - (c) Rickets in childhood Code to sequelae of rickets (E64.3). <i>Example 69:</i> I (a) Hydrocephalus - (b) Tuberculous meningitis Code to sequelae of tuberculous meningitis (B90.0). <i>Example 70:</i> I (a) Hypostatic pneumonia - (b) Hemiplegia - (c) Cerebrovascular accident (10 years)</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>例 70 : I (a) 臥床<沈下>性肺炎 (b) 片麻痺 (c) 脳卒中(10年経過) 脳卒中の続発・後遺症(I69.4)にコードする。</p> <p>例 71 : I (a) 慢性腎炎 (b) 猩紅熱 その他の明示された感染症および寄生虫症の続発・後遺症(B94.8)にコードする。腎炎が「慢性」であるとの記載から、猩紅熱はもはや活動期のものではないと考える。</p>	<p>例 70 : I (a) 臥床<沈下>性肺炎 (b) 片麻痺 (c) 脳卒中(10年経過) 脳卒中の続発・後遺症(I69.4)にコードする。</p> <p>例 71 : I (a) 慢性腎炎 (b) 猩紅熱 その他の明示された感染症および寄生虫症の続発・後遺症(B94.8)にコードする。腎炎が「慢性」であるとの記載から、猩紅熱はもはや活動期のものではないと考える。</p>	<p>Code to sequelae of cerebrovascular accident (I69.4). Example 71: I (a) Chronic nephritis (b) Scarlet fever Code to sequelae of other specified infectious and parasitic diseases (B94.8). The description of the nephritis as chronic implies that the scarlet fever is no longer in its active phase.</p>
42	<p>4.1.10 修正ルールの例 ...</p>	<p>4.1.10 修正ルールの例 ...</p> <p><u>修正後のルール 3 の適用</u></p> <p><u>修正ルールの適用後、改めてルール 3 を適用する。ただし、修正ルールにより選ばれた起因が他の病態によるものであることが正しく記載されている場合、その病態が診断名不明確の病態又は軽微な病態である場合を除き、ルール 3 は適用しない。</u></p> <p>例 xx: I (a) 敗血症 (b) 動脈塞栓症 (c) 循環不全 II 結腸の悪性新生物</p> <p><u>結腸の悪性新生物 (C18.9) にコードする。一般原則により選ばれる循環不全は、(ルール A 老衰及びその他の診断名不明確の病態) により却下し、動脈塞栓症を起因として選ぶ。動脈塞栓症は、結腸の悪性新生物 (消耗性疾患) の直接影響によるものと考えることができる。ルール 3 が適用され、結腸の悪性新生物 (C18.9) が原死因として選ばれる。</u></p> <p>例 xx: I (a) 敗血症 (b) 動脈塞栓症 (c) 全身性アテローム粥状硬化症 II 結腸の悪性新生物</p> <p><u>動脈塞栓症 (I74.9) にコードする。一般原則により選ばれる全身性アテローム粥状硬化症は、動脈塞栓症に連鎖する (ルール C)。動脈塞栓症は、結腸の悪性新生物 (消耗性疾患) の直接影響によるものと考えることができるが、この死亡診断書では動脈塞栓症が全身性アテローム粥状硬化症によるものであると記載されている。したがって、ルール 3 は適用しない。</u></p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules ...</p> <p><u>Application of Rule 3 following modification</u></p> <p><u>After application of the modification rules, selection Rule 3 should be re-applied. However, Rule 3 should not be applied if the originating cause selected by application of the modification rules is correctly reported as due to another condition, except when this other condition is ill-defined or trivial.</u></p> <p>Ex xx: I(a) Septicemia (b) Arterial embolism (c) Circulatory insufficiency II Malignant neoplasm of colon</p> <p><u>Code to malignant neoplasm of colon (C18.9). Circulatory insufficiency, selected by the General Principle, is ignored (Rule A Senility and other ill-defined conditions) and arterial embolism is selected as the originating cause. Arterial embolism can be considered a direct consequence of malignant neoplasm of colon (a wasting condition). Rule 3 applies, and malignant neoplasm of colon (C18.9) is selected as underlying cause of death.</u></p> <p>Ex xx: I(a) Septicemia (b) Arterial embolism (c) Generalized atherosclerosis II Malignant neoplasm of colon</p> <p><u>Code to arterial embolism (I74.9). Generalized atherosclerosis, selected by the General Principle, links with arterial embolism (Rule C). Although arterial embolism can be considered a direct consequence of malignant neoplasm of colon (a wasting condition) it is reported as due to generalized atherosclerosis on this certificate. Rule 3 is, therefore, not applied.</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
43	4.1.11 原死因コーディングのための注 ...	4.1.11 原死因コーディングのための注 A51.- 早期梅毒 下記の記載を伴うもの： A52.- (晩期梅毒)、A52.-にコードする。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding A51.- Early syphilis <i>with mention of:</i> A52.- (Latesyphilis), code A52.-
44		4.1.11 原死因コーディングのための注 C78-C79 続発性悪性新生物 原死因コーディングには使用しない。悪性新生物の 原発部位がわかっていないか、記載されていない場 合は、部位の明示されない悪性新生物 (C80.-) に コードする。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding C78-C79 Secondary malignant neoplasms Not to be used for underlying cause mortality coding. If primary site of malignant neoplasm is not known or indicated, code to Malignant neoplasm without specification of site (C80.-)
45	D50-D89 ...	4.1.11 原死因コーディングのための注 C97 独立した (原発性) 多発部位の悪性新生物 原死因コーディングには使用しない。多発性であるが独 立した悪性腫瘍が死亡証明書に記載される場合、選択ル ール及び修正ルールを通常の方法で適用することによっ て原死因を選ぶ。「4.2.7 節 悪性新生物」も参照。 D50-D89 ...	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding B95-B97 Bacterial, viral and other infectious agents Not to be used for underlying cause mortality coding. C97 Malignant neoplasms of independent (primary) multiple sites Not to be used for underlying cause mortality coding. When multiple but independent malignant neoplasms are reported on the death certificate, select the underlying cause by applying the Selection and Modification Rules in the normal way. See also section 4.2.7, Malignant neoplasms.
46	4.1.11 原死因コーディングのための注	4.1.11 原死因コーディングのための注 E10-E14 糖尿病 下記の起点となる先行原因として記載された場合： E87.2 (アシドーシス)、4 桁細分類項目.1 を伴う E10 -E14 にコードする。 E88.8 (その他の明示された代謝障害)、4 桁細分類項 目.1 を伴う E10-E14 にコードする。 G58.- (その他の単ニューロパチ<シ>-)、4 桁細分類 項目.4 を伴う E10-E14 にコードする。 G62.9 (多発 (性) ニューロパチ<シ>-、詳細不明)、 4 桁細分類項目.4 を伴う E10-E14 にコードす る。 G64 (末梢神経系のその他の障害)、4 桁細分類項目.4 を伴う E10-E14 にコードする。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding E10-E14 Diabetes mellitus <i>when reported as the originating antecedent cause of:</i> E87.2 (Acidosis), code E10-E14 with fourth character .1 E88.8 (Other specified metabolic disorders), code E10- E14 with fourth character .1 G58.- (Other mononeuropathies), code E10-E14 with fourth character .4 G62.9 (Polyneuropathy, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4 G64 (Other disorders of peripheral nervous system), code E10-E14 with fourth character .4 G70.9 (Myoneural disorder, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4 G71.8 (Other primary disorders of muscles), code E10- E14 with fourth character .4

2010

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
		G70.9 (神経筋障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.4を伴うE10-E14にコードする。	G90.9 (Disorder of autonomic nervous system, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4
		G71.8 (その他の原発性筋障害)、4桁細分類項目.4を伴うE10-E14にコードする。	H20.9 (Iridocyclitis), code E10-E14 with fourth character .3
		G90.9 (自律神経系の障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.4を伴うE10-E14にコードする。	H26.9 (Cataract, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3
		H20.9 (虹彩毛様体炎)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。	H30.9 (Chorioretinal inflammation, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3
		H26.9 (白内障, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。	H34 (Retinal vascular occlusions), code E10-E14 with fourth character .3
		H30.9 (網脈絡膜の炎症, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。	H35.0 (Background retinopathy and retinal vascular changes), code E10-E14 with fourth character .3
		H34 (網膜血管閉塞症)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。	H35.2 (Other proliferative retinopathy), code E10-E14 with fourth character .3
		H35.0 (背景網膜症及び網膜血管変化)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。	H35.6 (Retinal haemorrhage), code E10-E14 with fourth character .3
		H35.2 (その他の増殖性網膜症)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。	H35.9 (Retinal disorder, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3
		H35.6 (網膜出血)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。	H49.9 (Paralytic strabismus, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3
		H35.9 (網膜障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。	H54 (Blindness and low vision), code E10-E14 with fourth character .3
		H49.9 (麻痺性斜視, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。	I70.2 (Atherosclerosis of arteries of extremities), code E10-E14 with fourth character .5
		H54 (盲<失明>及び低視力)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。	I73.9 (Peripheral vascular disease, unspecified), code E10-E14 with fourth character .5
		I73.9 (末梢血管疾患, 詳細不明)、4桁細分類項目.5を伴うE10-E14にコードする。	I99 (Other and unspecified disorders of circulatory system), if angiopathy, code E10-E14 with fourth character .5
		I70.2 ((四)肢の動脈のアテローム<じゅく<粥>状>硬化(症))、4桁細分類項目.5を伴うE10-E14にコードする。	L30.9 (Dermatitis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6
		I99 (循環器系のその他及び詳細不明の障害)、血管障害の場合、4桁細分類項目.5を伴うE10-E14にコードする。	L92.1 (Necrobiosis lipoidica, not elsewhere classified), code E10-E14 with fourth character .6
		L30.9 (皮膚炎, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴うE10-E14にコードする。	M13.9 (Arthritis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6
		L92.1 (リポイド類えく壊>死症、他に分類されないもの)、4桁細分類項目.6を伴うE10-E14にコードする。	M79.2 (Neuralgia and neuritis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4
		M13.9 (関節炎, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴うE10-E14にコードする。	M89.9 (Disorder of bone, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6
		M79.2 (神経痛及び神経炎, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴うE10-E14にコードする。	N03-N05(Nephrotic syndrome), code E10-E14 with fourth character .2
		M89.9 (骨障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴うE10-E14にコードする。	N18.- (Chronic kidney disease), code E10-E14 with fourth character .2
			N19 (Unspecified kidney failure), code E10-E14 with fourth character .2
			N26 (Unspecified contracted kidney), code E10-E14 with fourth character .2
			N28.9 (Disorder of kidney and ureter, unspecified), code E10-E14 with fourth character .2
			N39.0 (Urinary tract infection, site not specified), code E10-E14 with fourth character .6
			N39.1 (Persistent proteinuria, unspecified), code E10-E14 with fourth character .2
			R02 (Gangrene, not elsewhere classified), code E10-E14 with fourth character .5
			R40.2 (Coma, unspecified), code E10-E14 with fourth

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>N03-N05 (ネフローゼ症候群)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N18.- (慢性腎臓病, 詳細不明)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N19 (詳細不明の腎不全)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N26 (詳細不明の萎縮腎)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N28.9 (腎及び尿管の障害)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N39.0 (尿路感染症, 部位不明)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N39.1 (持続性たんぱく<蛋白>尿, 詳細不明)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>R02 (え<壊>疽, 他に分類されないもの)、4桁細分類項目.5を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>R40.2 (昏睡, 詳細不明)、4桁細分類項目.0を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>R79.8 (その他の明示された血液化学的異常所見)、アセトン血症、高窒素血症、及び関連する病態の場合、4桁細分類項目.1を伴う E10-E14 にコードする。 上記の組み合わせのいずれかの場合、4桁細分類項目.7を伴う E10-E14 にコードする。</p>	<p>character .0</p> <p>R79.8 (Other specified abnormal findings of blood chemistry), if acetoneuria, azotemia, and related conditions, code E10-E14 with fourth character .1</p> <p>Any of above in combination, code E10-E14 with fourth character .7</p>
		<p>4.1.11 原死因コーディング  2013</p> <p>E10-E14 糖尿病</p> <p>下記の起点となる先行原因として記載された場合を伴うもの:</p> <p>E87.2 (アシドーシス)、4桁細分類項目.1を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>E88.8 (その他の明示された代謝障害)、4桁細分類項目.1を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>G58.- (その他の単ニューロパチ<シ>ー)、4桁細分類項目.4を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>G62.9 (多発(性)ニューロパチ<シ>ー, 詳細不明)、4桁細分類項目.4を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>G64 (末梢神経系のその他の障害)、4桁細分類項目.4を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>G70.9 (神経筋障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.4を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>G71.8 (その他の原発性筋障害)、4桁細分類項目.4を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>G90.9 (自律神経系の障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.4を伴う E10-E14 にコードする。</p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p>...</p> <p>E10-E14 Diabetes mellitus when reported as the originating antecedent cause with mention of:</p> <p>E87.2 (Acidosis), code E10-E14 with fourth character .1</p> <p>E88.8 (Other specified metabolic disorders), code E10-E14 with fourth character .1</p> <p>G58.- (Other mononeuropathies), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>G62.9 (Polyneuropathy, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>G64 (Other disorders of peripheral nervous system), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>G70.9 (Myoneural disorder, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>G71.8 (Other primary disorders of muscles), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>G90.9 (Disorder of autonomic nervous system, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>H20.9 (Iridocyclitis), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H26.9 (Cataract, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H30.9 (Chorioretinal inflammation, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H34 (Retinal vascular occlusions), code E10-E14 with fourth</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>H20.9 (虹彩毛様体炎)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H26.9 (白内障, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H30.9 (網脈絡膜の炎症, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H34 (網膜血管閉塞症)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H35.0 (背景網膜症及び網膜血管変化)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H35.2 (その他の増殖性網膜症)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H35.6 (網膜出血)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H35.9 (網膜障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H49.9 (麻痺性斜視, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H54 (盲<失明>および低視力)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>I73.9 (末梢血管疾患, 詳細不明)、4桁細分類項目.5を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>I70.2 ((四) 肢の動脈のアテローム<じゅく<粥>状>硬化 (症))、4桁細分類項目.5を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>I99 (循環器系のその他および詳細不明の障害)、血管障害の場合、4桁細分類項目.5を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>L30.9 (皮膚炎, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>L92.1 (リポイド類えく壊>死症、他に分類されないもの)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>L97 (下肢の潰瘍、他に分類されないもの)、4桁細分類項目.5を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>M13.9 (関節炎, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>M79.2 (神経痛及び神経炎, 詳細不明)、4桁細分類項目.4を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>M89.9 (骨障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N03-N05 (ネフローゼ症候群)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N18.- (慢性腎臓病, 詳細不明)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p>	<p>character .3</p> <p>H35.0 (Background retinopathy and retinal vascular changes), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H35.2 (Other proliferative retinopathy), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H35.6 (Retinal haemorrhage), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H35.9 (Retinal disorder, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H49.9 (Paralytic strabismus, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H54 (Blindness and low vision), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>I70.2 (Atherosclerosis of arteries of extremities), code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>I73.9 (Peripheral vascular disease, unspecified), code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>I99 (Other and unspecified disorders of circulatory system), if angiopathy, code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>L30.9 (Dermatitis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>L92.1 (Necrobiosis lipoidica, not elsewhere classified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>L97 (Ulcer of lower limb), code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>M13.9 (Arthritis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>M79.2 (Neuralgia and neuritis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>M89.9 (Disorder of bone, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>N03-N05 (Nephrotic syndrome), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N18.- (Chronic kidney disease), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N19 (Unspecified kidney failure), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N26 (Unspecified contracted kidney), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N28.9 (Disorder of kidney and ureter, unspecified), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N39.0 (Urinary tract infection, site not specified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>N39.1 (Persistent proteinuria, unspecified), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>R02 (Gangrene, not elsewhere classified), code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>R40.2 (Coma, unspecified), code E10-E14 with fourth character .0</p> <p>R79.8 (Other specified abnormal findings of blood chemistry), if acetonemia, azotemia, and related conditions, code E10-E14 with fourth character .1</p> <p>Any of above in combination, code E10-E14 with fourth character .7 <i>when reported as the originating antecedent cause of:</i> E15 (Non-diabetic hypoglycaemic coma for unspecified</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>N19 (詳細不明の腎不全)、4桁細分類項目.2を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>N26 (詳細不明の萎縮腎)、4桁細分類項目.2を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>N28.9 (腎及び尿管の障害)、4桁細分類項目.2を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>N39.0 (尿路感染症、部位不明)、4桁細分類項目.6を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>N39.1 (持続性たんぱく尿、詳細不明)、4桁細分類項目.2を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>R02 (えく壊瘡、他に分類されないもの)、4桁細分類項目.5を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>R40.2 (昏睡、詳細不明)、4桁細分類項目.0を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>R79.8 (その他の明示された血液化学的異常所見)、アセトン血症、高窒素血症、及び関連する病態の場合、4桁細分類項目.1を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>上記の組み合わせのいずれかの場合、4桁細分類項目.7を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>下記の起点となる先行原因として記載された場合：</p> <p>E15 (非糖尿病性低血糖性昏睡：詳細不明の低血糖性昏睡の場合のみ)、E1x.0にコードする。</p> <p>G70.9 (神経筋障害、詳細不明)、4桁細分類項目.4を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>G98 (神経系のその他の障害、他に分類されないもの：シヤルコー<Charcot>関節症(脊髄ろう<癆>性)、非梅毒性を除く)、4桁細分類項目.4を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>G98 (神経系のその他の障害、他に分類されないもの：シヤルコー<Charcot>関節症(脊髄ろう<癆>性)、非梅毒性の場合のみ)、4桁細分類項目.6を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>H49.9 (麻痺性斜視、詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>H54 (盲<失明>及び低視力)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>I99 (循環器系のその他及び詳細不明の障害)、血管障害<病><アンギオパシー>の場合、4桁細分類項目.5を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>K31.8 (胃及び十二指腸のその他の明示された疾患：胃不全麻痺の場合のみ)、4桁細分類項目.4を伴うE10-E14にコードする。</p>	<p>hypoglycemic coma only), code E1x.0</p> <p>G70.9 (Myoneural disorder, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>G98 (Other disorders of the nervous system, not elsewhere classified except Charcot's arthropathy, non-syphilitic), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>G98 (Other disorders of the nervous system, not elsewhere classified if Charcot's arthropathy, non-syphilitic), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>H49.9 (Paralytic strabismus, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H54 (Blindness and low vision), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>I99 (Other and unspecified disorders of circulatory system), if angiopathy, code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>K31.8 (Other specified diseases of stomach and duodenum; gastroparesis only), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>L30.9 (Dermatitis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>L98.4 (Chronic ulcer of skin, not elsewhere classified), code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>M89.9 (Disorder of bone, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>N39.0 (Urinary tract infection, site not specified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>Any of above in combination, code E10-E14 with fourth character .7</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>L30.9 (皮膚炎, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>L98.4 (皮膚の慢性潰瘍, 他に分類されないもの)、4桁細分類項目.5を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>M89.9 (骨障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N39.0 (尿路感染症, 部位不明)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>上記の組み合わせのいずれかの場合、4桁細分類項目.7を伴う E10-E14 にコードする。</p>	
47	4.1.11 原死因コーディングのための注	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p><u>F10-F19 精神作用物質使用による精神及び行動の障害</u> ... 4桁細分類項目 .2 (依存症候群) でせん妄を伴う離脱状態 (.4) の記載を伴うもの、4桁細分類項目 .4 を伴う F10-F19 にコードする。</p> <p>4桁細分類項目 .2 (依存症候群) で健忘症候群 (.6) の記載を伴うもの、4桁細分類項目 .6 を伴う F10-F19 にコードする。</p> <p>4桁細分類項目 .2 (依存症候群) で残遺及び晩発性精神病性障害 (.7) の記載を伴うもの、4桁細分類項目 .7 を伴う F10-F19 にコードする。</p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p><u>F10-F19 Mental and behavioural disorders due to psychoactive substance use</u> ... <u>Fourth character .2 (Dependence syndrome) with mention of Withdrawal state with delirium (.4), code F10-F19 with fourth character .4</u></p> <p><u>Fourth character .2 (Dependence syndrome) with mention of Amnesic syndrome (.6), code F10-F19 with fourth character .6</u></p> <p><u>Fourth character .2 (Dependence syndrome) with mention of Residual and late-onset psychotic disorder (.7), code F10-F19 with fourth character .7</u> ...</p>
48	<p>F 10.- アルコール使用による精神および行動の障害 下記の記載を伴うもの： E 24.4 (アルコール性クッシング<Cushing> 症候群)、 E 24.4 にコードする。 ... K 76.9 (肝疾患、 詳細不明)、 K 70.9 にコードする。 K 85 (急性膵炎)、 K 85 にコードする。 K 86.0 (アルコール性慢性膵炎)、 K 86.0 にコードする。</p>	<p>F 10.- アルコール使用による精神及び行動の障害 下記の記載を伴うもの： E 24.4 (アルコール性クッシング<Cushing> 症候群)、 E 24.4 にコードする。 ... K 76.9 (肝疾患、 詳細不明)、 K 70.9 にコードする。 K 85 (急性膵炎)、 K 85 にコードする。 K 85.2 (アルコール性急性膵炎)、 K 85.2 にコードする。 K 86.0 (アルコール性慢性膵炎)、 K 86.0 にコードする。</p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p>F10.- Mental and behavioural disorders due to use of alcohol with mention of: ... K76.9 (Liver disease, unspecified), code K70.9 ... <u>K85.2 (Alcohol-induced acute pancreatitis), code K85.2</u> ... K86.0 (Alcohol-induced chronic pancreatitis), code K86.0</p>
49	<p>F 10.- アルコール使用による精神および行動の障害 下記の記載を伴うもの： E 24.4 (アルコール性クッシング<Cushing> 症候群)、 E 24.4 にコードする。</p>	<p>F 10.- アルコール使用による精神及び行動の障害 下記の記載を伴うもの： E 24.4 (アルコール性クッシング<Cushing> 症候群)、 E 24.4 にコードする。</p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p>F10.- Mental and behavioural disorders due to use of alcohol with mention of: E24.4 (Alcohol-induced Cushing's syndrome), code E24.4 ...</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	...	F10.0 ... アルコール使用による急性中毒 下記の記載を伴うもの: F10.2 (アルコール使用による依存症候群)、F10.2 にコードする。	F10.0 <u>Acute intoxication due to use of alcohol</u> <i>with mention of:</i> F10.2 <u>(Dependence syndrome due to use of alcohol), code F10.2</u> F10.2 Dependence syndrome due to use of alcohol <i>with mention of:</i> F10.4, F10.6, F10.7 Withdrawal state with delirium, Amnesic syndrome, Residual and late-onset psychotic disorder, code F10.4, F10.6, F10.7
50	F10.2 アルコール使用による依存症候群 下記の記載を伴うもの: F10.4、F10.6、F10.7 せん妄を伴う離脱状態、健忘症候 群、残遺および晩発性 精神病性障害、F10.4、F10.6、F10.7 にコードする。	F10.2 アルコール使用による依存症候群 下記の記載を伴うもの: F10.4、F10.6、F10.7 せん妄を伴う離脱状態、健忘症候 群、残遺および晩発性 精神病性障害、F10.4、F10.6、F10.7 にコードする。	F10.2 Dependence syndrome due to use of alcohol <i>with mention of:</i> F10.4, F10.6, F10.7 Withdrawal state with delirium, Amnesic syndrome, Residual and late-onset psychotic disorder, code F10.4, F10.6, F10.7
51	F17.- タバコ使用による精神および行動の障害 下記の起点となる先行原因として記載された場合: C34.- (気管支および肺の悪性新生物)、 <u>C34.-</u> にコードする。 I20-I25 (虚血性心疾患)、 <u>I20-I25</u> にコード する。 J40-J47 (慢性下気道疾患)、 <u>J40-J47</u> にコー ドする。	F17.- タバコ使用による精神及び行動の障害 下記の起点となる先行原因として記載された場合: C34.- (気管支および肺の悪性新生物)、<u>C34.-</u> にコードする。 I20-I25 (虚血性心疾患)、<u>I20-I25</u> にコード する。 J40-J47 (慢性下気道疾患)、<u>J40-J47</u> にコー ドする。 <u>結果として生じた身体的病態がわかっている場合は使用し ない。</u>	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding F17.- Mental and behavioural disorders due to use of tobacco <i>when reported as the originating antecedent cause of:</i> C34.- (Malignant neoplasm of bronchus and lung), code <u>C34.-</u> I20-I25 (Ischaemic heart disease), code <u>I20-I25</u> J40-J47 (Chronic lower respiratory disease), code <u>J40-J47</u> <u>Not to be used if the resultant physical condition is known</u>
52	4.1.11 原死因コーディングのための注 ...	4.1.11 原死因コーディングのための注 ... F80.- 会話及び言語の特異的発達障害 F81.- 学習能力の特異的発達障害 <u>原因となる身体的病態がわかっている場合は使用しない。</u>	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding ... <u>F80.- Specific developmental disorders of speech and language</u> <u>F81.- Specific developmental disorders of scholastic skills</u> <u>Not to be used if underlying physical condition is known</u>
53	4.1.11 原死因コーディングのための注 I10 本態性 (原発性<一次性>) 高血圧 (症) 下記の記載を伴うもの: N05.- (詳細不明の腎炎症候群)、 <u>N05.-</u> にコードす る。 N18.- (慢性腎不全)、 <u>I12.-</u> にコードする。 N19 (詳細不明の腎不全)、 <u>I12.-</u> にコードする。	4.1.11 原死因コーディングのための注 I10 本態性 (原発性<一次性>) 高血圧 (症) 下記の記載を伴うもの: N05.- (詳細不明の腎炎症候群)、 <u>N05.-</u> にコードす る。 N18.- (慢性腎不全腎臓病)、 <u>I12.-</u> にコードする。 N19 (詳細不明の腎不全)、 <u>I12.-</u> にコードする。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding I10 Essential (primary) hypertension <i>with mention of:</i> N05.- (Unspecified nephritic syndrome), code <u>N05.-</u> N18.- (Chronic renal failure kidney disease), code <u>I12.-</u> N19 (Unspecified renal failure), code <u>I12.-</u>
54	4.1.11 原死因コーディングのための注	4.1.11 原死因コーディングのための注	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding I10 Essential (primary) hypertension

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
	<p>I10 本態性(原発性<一次性>)高血圧(症) 下記の記載を伴うもの: I11.- (高血圧性心疾患)、I11.-にコードする。 I12.- (高血圧性腎疾患)、I12.-にコードする。 I13.- (高血圧性心腎疾患)、I13.-にコードする。 I20-I25 (虚血性心疾患)、I20-I25にコードする。 I60-I69 (脳血管疾患)、I60-I69にコードする。 N00.- (急性腎炎症候群)、N00.-にコードする。</p> <p>...</p> <p>下記の起点となる先行原因として記載された場合: H35.0 (背景網膜症および網膜血管変化)、H35.0にコードする。 I05-I09 (リウマチ性と明示されないが、I05-I09に分類される疾患)、I34-I38にコードする。 I34-I38 (非リウマチ性弁膜症)、I34-I38にコードする。 I50.- (心不全)、I11.0にコードする。 I51.4-I51.9 (心疾患の合併症および診断名不明確な心疾患の記載)、I11.-にコードする。</p>	<p>I10 本態性(原発性<一次性>)高血圧(症) 下記の記載を伴うもの: I11.- (高血圧性心疾患)、I11.-にコードする。 I12.- (高血圧性腎疾患)、I12.-にコードする。 I13.- (高血圧性心腎疾患)、I13.-にコードする。 I20-I25 (虚血性心疾患)、I20-I25にコードする。 I50.- (心不全)、I11.0にコードする。 <u>I51.4-I51.9 (心疾患の合併症及び診断名不明確な心疾患の記載)、I11.-にコードする。</u> I60-I69 (脳血管疾患)、I60-I69にコードする。 N00.- (急性腎炎症候群)、N00.-にコードする。</p> <p>...</p> <p>下記の起点となる先行原因として記載された場合: H35.0 (背景網膜症及び網膜血管変化)、H35.0にコードする。 I05-I09 (リウマチ性と明示されないが、I05-I09に分類される疾患)、I34-I38にコードする。 I34-I38 (非リウマチ性弁膜症)、I34-I38にコードする。 I50.- (心不全)、I11.0にコードする。 I51.4-I51.9 (心疾患の合併症および診断名不明確な心疾患の記載)、I11.-にコードする。</p>	<p><i>with mention of:</i></p> <p>I11.- (Hypertensive heart disease), code I11.- I12.- (Hypertensive renal disease), code I12.- I13.- (Hypertensive heart and renal disease), code I13.- I20-I25 (Ischaemic heart disease), code I20-I25 I50.- (Heart failure), code I11.0 I51.4- (Complications and ill-defined I51.9 descriptions of heart disease), code I11.- I60-I69 (Cerebrovascular disease), code I60-I69 N00.- (Acute nephritic syndrome), code N00.-</p> <p>..</p> <p><i>when reported as the originating antecedent cause of:</i></p> <p>H35.0 (Background retinopathy and other vascular changes), code H35.0 I05-I09 (Conditions classifiable to I05-I09 but not specified as rheumatic), code I34-I38 I34-I38 (Nonrheumatic valve disorders), code I34-I38 I50.- (Heart failure), code I11.0 I51.4 (Complications and ill-defined I51.9 descriptions of heart disease), code I11.-</p>
55	<p>I11.- 高血圧性心疾患 下記の記載を伴うもの: I20-I25 (虚血性心疾患)、<u>I20-I25</u>にコードする。 N18.- (慢性腎不全)、<u>I13.-</u>にコードする。 N19 (詳細不明の腎不全)、<u>I13.-</u>にコードする。 N26 (詳細不明の萎縮腎)、<u>I13.-</u>にコードする。</p>	<p>I11.- 高血圧性心疾患 下記の記載を伴うもの: I20-I25 (虚血性心疾患)、<u>I20-I25</u>にコードする。 N18.- (慢性腎不全腎臓病)、<u>I13.-</u>にコードする。 N19 (詳細不明の腎不全)、<u>I13.-</u>にコードする。 N26 (詳細不明の萎縮腎)、<u>I13.-</u>にコードする。</p>	<p>I11.- Hypertensive heart disease</p> <p><i>with mention of:</i></p> <p>I20-I25 (Ischaemic heart disease), code I20-I25 N18.- (Chronic renal failure kidney disease), code I13.- N19 (Unspecified renal failure), code I13.-</p>
56	<p>I12.- 高血圧性腎疾患 下記の記載を伴うもの: I11.- (高血圧性心疾患)、I13.-にコードする。</p>	<p>I12.- 高血圧性腎疾患 下記の記載を伴うもの: I11.- (高血圧性心疾患)、I13.-にコードする。</p>	<p>I12.- Hypertensive renal disease</p> <p><i>with mention of:</i></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>I13- (高血圧性心腎疾患)、I13.-にコードする。 I20-I25 (虚血性心疾患)、I20-I25 にコードする。</p> <p>下記の起点となる先行原因として記載された場合：</p> <p>I50.- (心不全)、I13.0 にコードする。 I51.4-I51.9 (心疾患の合併症および診断名不明確な心疾患の記載)、I13.-にコードする。</p>	<p>I13- (高血圧性心腎疾患)、I13.-にコードする。 I20-I25 (虚血性心疾患)、I20-I25 にコードする。</p> <p><u>I50.- (心不全)、I13.0 にコードする。</u></p> <p><u>I51.4-I51.9 (心疾患の合併症及び診断名不明確な心疾患の記載)、I13.-にコードする。</u></p> <p>下記の起点となる先行原因として記載された場合： I50.- (心不全)、I13.0 にコードする。 I51.4-I51.9 (心疾患の合併症および診断名不明確な心疾患の記載)、I13.-にコードする。</p>	<p>I11.- (Hypertensive heart disease), code I13.- I13.- (Hypertensive heart and renal disease), code I13.- I20-I25 (Ischaemic heart disease), code I20-I25 <u>I50.- (Heart failure), code I13.0</u> <u>I51.4- (Complications and ill-defined</u> <u>I51.9 descriptions of heart disease), code I13.-</u></p> <p><i>when reported as the originating antecedent cause of:</i></p> <p>I50.- (Heart failure), code I13.0 I51.4 (Complications and ill defined I51.9 descriptions of heart disease), code I13.-</p>
57	<p>I 13. - 高血圧性心腎疾患 下記の病態を伴うもの： I 20- I 25 (虚血性心疾患)、<u>I 20- I 25</u> にコードする。</p>	<p>I 13. - 高血圧性心腎疾患 下記の記載病態を伴うもの： I 20- I 25 (虚血性心疾患)、<u>I 20- I 25</u> にコードする。</p>	<p>I13.- Hypertensive heart and renal disease <i>with mention of:</i> I20-I25 (Ischaemic heart disease), code I20-I25</p>
58	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p>I 15.- 二次性<続発性>高血圧 (症) 原死因コーディングには使用しない。もし、原因が記載されていないならば、その他の診断名不明確および原因不明の死亡 (R99) にコードする。</p>	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p>I 15.- 二次性<続発性>高血圧 (症) 原死因コーディングには使用しない。もし、原因が記載されていないならば、その他の診断名不明確および原因不明の死亡 (R99) にコードする。</p> <p><u>I15.0 腎血管性高血圧 (症)</u> <u>ルール 3 の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、I15.0 にコードする。</u></p> <p><u>I15.1 その他の腎障害による二次性<続発性>高血圧 (症)</u> <u>ルール 3 の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、N28.9 にコードする。</u></p> <p><u>I15.2 内分泌障害による二次性<続発性>高血圧 (症)</u> <u>ルール 3 の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、E34.9 にコードする。</u></p> <p><u>I15.8 その他の二次性<続発性>高血圧 (症)</u> <u>ルール 3 の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、I15.8 にコードする。</u></p> <p><u>I15.9 二次性<続発性>高血圧 (症)、詳細不明</u> <u>ルール 3 の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、I15.9 にコードする。</u></p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p>I15.- Secondary hypertension</p> <p>Not to be used for underlying cause mortality coding. If the cause is not stated, code to Other ill defined and unspecified causes of mortality (R99).</p> <p>I15.0 Renovascular hypertension <u>Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to I15.0.</u></p> <p><u>I15.1 Hypertension secondary to other renal disorders</u> <u>Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to N28.9.</u></p> <p><u>I15.2 Hypertension secondary to endocrine disorders</u> <u>Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to E34.9.</u></p> <p><u>I15.8 Other secondary hypertension</u> <u>Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to I15.8.</u></p> <p><u>I15.9 Secondary hypertension, unspecified</u> <u>Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to I15.9.</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
59	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p>I24.0 冠 (状) (動脈) 血栓症、心筋梗塞に至らなかったもの原死因コーディングには使用しない。死因としては心筋梗塞の発生が推定され、<u>I21.-</u>または <u>I22.-</u>に分類するのが適当である。</p> <p>I27.9 肺性心疾患、詳細不明 下記の記載を伴うもの： <u>M41.-</u> ((脊柱) 側弯 (症))、<u>I27.1</u> にコードする。</p>	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p>I24.0 冠 (状) (動脈) 血栓症、心筋梗塞に至らなかったもの原死因コーディングには使用しない。死因としては心筋梗塞の発生が推定され、<u>I21.-</u>又は <u>I22.-</u>に分類するのが適当である。</p> <p><u>I25.2 陳旧性心筋梗塞</u> <u>原死因コーディングには使用しない。もし、原因が記載されていないならば、その他の型の慢性虚血性心疾患 (I25.8) にコードする。</u></p> <p>I27.9 肺性心疾患、詳細不明 下記の記載を伴うもの： <u>M41.-</u> ((脊柱) 側弯 (症))、<u>I27.1</u> にコードする。</p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p>I24.0 Coronary thrombosis not resulting in myocardial infarction Not to be used for underlying cause mortality coding. For mortality the occurrence of myocardial infarction is assumed and assignment made to I21.- or I22.- as appropriate</p> <p><u>I25.2 Old myocardial infarction</u> <u>Not to be used for underlying cause mortality coding. If the cause is not stated, code to Other forms of chronic ischaemic heart disease (I25.8)</u></p> <p>I27.9 Pulmonary heart disease, unspecified with mention of: M41.- (Scoliosis), code I27.1</p>
60	<p>I50.- 心不全 I51.9 心疾患、詳細不明 下記の記載を伴うもの： <u>M41.-</u> ((脊柱) 側弯 (症))、I27.1 にコードする。</p>	<p>I50.- 心不全 I51.9 心疾患、詳細不明 下記の記載を伴うもの： <u>I10 (本態性 (原発性<一次性>) 高血圧 (症))、I1.0 にコードする。</u> <u>I11.- (高血圧性心疾患)、I11.0 にコードする。</u> <u>I12.0 (腎不全を伴う高血圧性腎疾患)、I13.2 にコードする。</u> <u>I12.9 (腎不全を伴わない高血圧性腎疾患)、I13.0 にコードする。</u> <u>I13.0 (心不全 (うっ血性) を伴う高血圧性心腎疾患)、I13.0 にコードする。</u> <u>I13.1 (腎不全を伴う高血圧性心腎疾患)、I13.2 にコードする。</u> <u>I13.2 (心不全 (うっ血性) 及び腎不全の合併を伴う高血圧心腎疾患)、I13.2 にコードする。</u> <u>I13.9 (腎不全を伴う高血圧性心腎疾患、詳細不明)、I13.0 にコードする。</u> <u>M41.- ((脊柱) 側弯 (症))、I27.1 にコードする。</u></p>	<p>I50.- Heart failure I51.9 Heart disease, unspecified with mention of:</p> <p><u>I10 (Essential (primary) hypertension), code I11.0</u> <u>I11.0 (Hypertensive heart disease), code I11.0</u> <u>I12.0 (Hypertensive renal disease with renal failure), code I13.2</u> <u>I12.9 (Hypertensive renal disease without renal failure), code I13.0</u> <u>I13.0 (Hypertensive heart and renal disease with (congestive) heart failure), code I13.0</u> <u>I13.1 (Hypertensive heart and renal disease with renal failure), code I13.2</u> <u>I13.2 (Hypertensive heart and renal disease with both (congestive) heart failure and renal failure), code I13.2</u> <u>I13.9 (Hypertensive heart and renal disease with renal failure, unspecified), code I13.0</u> M41.- (Scoliosis), code I27.1</p>
61	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p>I67.2 脳動脈のアテローム<じゅく<粥>状>動脈硬化 (症) 下記の記載を伴うもの： <u>I60-I66 (脳出血、脳梗塞および脳卒中、脳実質外動脈および脳動脈の閉塞および狭窄)、I60-I64 にコードする。</u> 下記における病態の起点となる先行原因として記載された場合： <u>F03 (詳細不明の認知症)、F01.-にコードする。</u></p>	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p>I67.2 脳動脈のアテローム<じゅく<粥>状>動脈硬化 (症) 下記の記載を伴うもの： <u>I60-I66 (脳出血、脳梗塞及び脳卒中、脳実質外動脈及び脳動脈の閉塞及び狭窄)、I60-I64 にコードする。</u> 下記における病態の起点となる先行原因として記載された場合： <u>F03 (詳細不明の認知症)、F01.-にコードする。</u></p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p>I67.2 Cerebral atherosclerosis with mention of: I60-I66 (Cerebral haemorrhage, cerebral infarction or stroke, occlusion and stenosis of precerebral and cerebral arteries), code I60-I64.</p> <p>When reported as the originating antecedent cause of conditions in: F03 (Unspecified dementia), code F01.- G20 (Parkinson's disease), code G20 G21.4 <u>G21.9 (Secondary parkinsonism, unspecified), code G21.4</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
	G20 (パーキンソン<Parkinson>病)、 <u>G20</u> にコードする。	G20 (パーキンソン<Parkinson>病)、 G20 <u>G21.4</u> にコードする。 G21.9 (続発性パーキンソン<Parkinson>症候群, 詳細不明)、G21.4にコードする。	
62	I70.9 全身性および詳細不明のアテローム<じゅく>状動脈硬化(症) 下記の記載を伴うもの: R02 (え<壊>疽、他に分類されないもの)、 <u>I70.2</u> にコードする。 下記における病態の起点となる先行原因として記載された場合: F01 (血管性認知症)、 <u>F01.-</u> にコードする。 F03 (詳細不明の認知症)、 <u>F01.-</u> にコードする。 G20 (パーキンソン<Parkinson>病)、 <u>G20</u> にコードする。	I70.9 全身性及び詳細不明のアテローム<じゅく>状動脈硬化(症) 下記の記載を伴うもの: R02 (え<壊>疽、他に分類されないもの)、 <u>I70.2</u> にコードする。 下記における病態の起点となる先行原因として記載された場合: F01 (血管性認知症)、 <u>F01.-</u> にコードする。 F03 (詳細不明の認知症)、 <u>F01.-</u> にコードする。 G20 (パーキンソン<Parkinson>病)、 G20 <u>G21.4</u> にコードする。 G21.9 (続発性パーキンソン<Parkinson>症候群, 詳細不明)、G21.4にコードする。	I70.9 Generalised and unspecified atherosclerosis <i>With mention of:</i> R02 (Gangrene, not elsewhere classified), code I70.2 <i>When reported as the originating antecedent cause of:</i> F01 (Vascular dementia), code F01.- F03 (Unspecified dementia), code F01.- G20 (Parkinson's disease), code G20 G21.4 G21.9 (Secondary parkinsonism, unspecified), code G21.4
63	J 06.- 多部位および部位不明の急性上気道感染症 下記の起点となる先行原因として記載された場合: G03.8 (髄膜炎)、G03.8にコードする。 G06.0 (頭蓋内膿瘍および肉芽腫)、 <u>G06.0</u> にコードする。 H65-H66 (中耳炎)、 <u>H65-H66</u> にコードする。 H70.- (乳(様)突(起)炎および関連病態)、 <u>H70.-</u> にコードする。 J10-J18 (インフルエンザおよび肺炎)、 <u>J10-J18</u> にコードする。 J20-J21 (気管支炎および細気管支炎)、 <u>J20-J21</u> にコードする。 J40-J42 (詳細不明および慢性気管支炎)、 <u>J40-J42</u> にコードする。 J44.- (その他の慢性閉塞性肺疾患)、 <u>J44.-</u> にコードする。 N00.- (急性腎炎症候群)、 <u>N00.-</u> にコードする。	J 06.- 多部位及び部位不明の急性上気道感染症 下記の起点となる先行原因として記載された場合: G03.8 (髄膜炎)、G03.8にコードする。 G06.0 (頭蓋内膿瘍及び肉芽腫)、 <u>G06.0</u> にコードする。 H65-H66 (中耳炎)、 <u>H65-H66</u> にコードする。 H70.- (乳(様)突(起)炎及び関連病態)、 <u>H70.-</u> にコードする。 J10 J09-J18 (インフルエンザ及び肺炎)、 <u>J10-J18</u> にコードする。 J20-J21 (気管支炎及び細気管支炎)、 <u>J20-J21</u> にコードする。 J40-J42 (詳細不明及び慢性気管支炎)、 <u>J40-J42</u> にコードする。 J44.- (その他の慢性閉塞性肺疾患)、 <u>J44.-</u> にコードする。 N00.- (急性腎炎症候群)、 <u>N00.-</u> にコードする。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding J00 Acute nasopharyngitis [common cold] J06.- Acute upper respiratory infections of multiple and unspecified sites <i>when reported as the originating antecedent cause of:</i> G03.8 (Meningitis), code G03.8 G06.0 (Intracranial abscess and granuloma), code G06.0 H65-H66 (Otitis media), code H65-H66 H70.- (Mastoiditis and related conditions), code H70.- J09 J18 (Influenza and pneumonia), code J09 J18 J20-J21 (Bronchitis and bronchiolitis), code J20-J21 J40-J42 (Unspecified and chronic bronchitis), code J40-J42 J44.- (Other chronic obstructive pulmonary disease), code J44.- N00.- (Acute nephritic syndrome), code N00.-
64	4.1.11 原死因コーディングのための注 J 06.- 多部位および部位不明の急性上気道感染症 ... J 20.- 急性気管支炎	4.1.11 原死因コーディングのための注 J06.- 多部位及び部位不明の急性上気道感染症 ... J18.- 肺炎, 病原体不詳 下記の記載を伴うもの: R26.3 (不動態)、J18.2にコードする。 J20.- 急性気管支炎	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding J06.- Acute upper respiratory infections of multiple and unspecified sites ... <u>J18.- Pneumonia, organism unspecified</u> <i>With mention of:</i> <u>R26.3 (Immobility), code to J18.2</u> J20.- Acute bronchitis
65	4.1.11 原死因コーディングのための注	4.1.11 原死因コーディングのための注	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
	J43.- 肺気腫 ... J45.- 喘息	J43.- 肺気腫 ... J44.8-J44.9 その他及び詳細不明の慢性閉塞性肺疾患 下記の記載を伴うもの: J12-J18 (肺炎)、J44.0 にコードする。 J20-J22 (その他の急性下気道感染症)、J44.0 にコードする。 J45.- 喘息	J43.- Emphysema ... J44.8-J44.9 Other and unspecified chronic obstructive pulmonary disease With mention of: J12-J18 (Pneumonia), code J44.0 J20-J22 (Other acute lower respiratory infections), code J44.0 J45.- Asthma
66	4.1.11 原死因コーディングのための注 K 72 肝不全、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.4 にコードする。 K 73 慢性肝炎、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.1 にコードする。 K 74.0 肝線維症 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.2 にコードする。 K 74.1 肝硬化症 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.2 にコードする。 K 74.2 肝硬化症を伴う肝線維症 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.2 にコードする。 K 74.6 その他および詳細不明の肝硬変 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.3 にコードする。 K 75.9 炎症性肝疾患、詳細不明 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.1 にコードする。 K 76.0 脂肪肝<肝の脂肪化>、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.0 にコードする。	4.1.11 原死因コーディングのための注 K71 中毒性肝疾患 下記の記載を伴うもの:: T51.- (アルコールの毒作用)、K70.-にコードする。 K 72 肝不全、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、K 70.4 にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、K70.4 にコードする。 K 73 慢性肝炎、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、K 70.1 にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、K70.1 にコードする。 K 74.0 肝線維症 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、K 70.2 にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、K70.2 にコードする。 K 74.1 肝硬化症 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、K 70.2 にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、K70.2 にコードする。 K 74.2 肝硬化症を伴う肝線維症 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、K 70.2 にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、K70.2 にコードする。 K 74.6 その他及び詳細不明の肝硬変 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、K 70.3 にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、K70.3 にコードする。 K 75.9 炎症性肝疾患、詳細不明	4.1.11 Notes for underlying cause mortality coding K71 Toxic liver disease with mention of: T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.- K72 Hepatic failure, not elsewhere classified with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.4 T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.4 K73 Chronic hepatitis, not elsewhere classified with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.1 T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.1 K74.0 Hepatic fibrosis with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.2 T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.2 K74.1 Hepatic sclerosis with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.2 T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.2 K74.2 Hepatic fibrosis with hepatic sclerosis with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.2 T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.2 K74.6 Other and unspecified cirrhosis of liver with mention of:

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>K 76.9 肝疾患、詳細不明 下記の記載を伴うもの： F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、<u>K 70.9</u> にコードする。</p>	<p>下記の記載を伴うもの： F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、<u>K 70.1</u> にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、<u>K70.1</u> にコードする。 K 76.0 脂肪肝<肝の脂肪化>、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの： F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、<u>K 70.0</u> にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、<u>K70.0</u> にコードする。 K 76.9 肝疾患、詳細不明 下記の記載を伴うもの： F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、<u>K 70.9</u> にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、<u>K70.9</u> にコードする。</p>	<p>F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code <u>K70.3</u> T51.- (<u>Toxic effect of alcohol</u>), code <u>K70.3</u> K75.9 Inflammatory liver disease, unspecified with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code <u>K70.1</u> T51.- (<u>Toxic effect of alcohol</u>), code <u>K70.1</u> K76.0 Fatty (change) of liver, not elsewhere classified with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code <u>K70.0</u> T51.- (<u>Toxic effect of alcohol</u>), code <u>K70.0</u> K76.9 Liver disease, unspecified with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code <u>K70.9</u> T51.- (<u>Toxic effect of alcohol</u>), code <u>K70.9</u></p>
67	<p>K 91.- 消化器系の処置後障害, 他に分類されないもの 原死因コーディングには使用しない。手術、4.2.6 節参照。</p>	<p>K85.9 急性膵炎, 詳細不明 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、<u>K85.2</u> にコードする。 K 91.- 消化器系の処置後障害, 他に分類されないもの 原死因コーディングには使用しない。手術、4.2.6 節参照。</p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding <u>K85.9 Acute pancreatitis, unspecified</u> with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K85.2</p>
68	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p>	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注 L89.- じょくく褥>瘡性潰瘍 下記の起点となる先行原因として記載された場合： さらに病期の進んだ L89.- (じょくく褥>瘡性潰瘍)、そのさらに進んだ病期の4桁細分類項目を伴う L89.- にコードする。</p>	<p><u>L89.- Decubitus ulcer and pressure area</u> <u>when reported as the originating antecedent cause of:</u> <u>L89.- (Decubitus ulcer and pressure area) of a more advanced stage, code L89.- with the fourth character for the more advanced stage.</u></p>
69	<p>N00.- 急性ネフローゼ症候群 下記の起点となる先行原因として記載された場合： N03.- (慢性ネフローゼ症候群)、<u>N03.-</u> にコードする。 N18.- 慢性腎不全</p>	<p>N00.- 急性ネフローゼ症候群 下記の起点となる先行原因として記載された場合： N03.- (慢性ネフローゼ症候群)、<u>N03.-</u> にコードする。 N18.- 慢性腎不全腎臓病</p>	<p>N00.- Acute nephritic syndrome when reported as the originating antecedent cause of: N03.- (Chronic nephritic syndrome), code N03.- N18.- Chronic renal failure <u>kidney disease</u></p>
70	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p>	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p>	<p><u>N18.- Chronic kidney disease</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		N18.- 慢性腎臓病 下記の起点となる先行原因として記載された場合： さらに病期の進んだ N18.- (慢性腎臓病)、そのさらに進んだ病期の 4 桁細分類項目を伴う N18.- にコードする。	<i>when reported as the originating antecedent cause of:</i> <u>N18.- (Chronic kidney disease) of a more advanced stage, code N18.- with the fourth character for the more advanced stage</u>
71	4.1.11 原死因コーディングのための注	4.1.11 原死因コーディングのための注 Q44.6 肝臓の嚢胞性疾患 下記の記載を伴うもの： Q61.1-Q61.3 (多発性嚢胞腎疾患)、Q61.1-Q61.3 にコードする。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding Q44.6 Cystic disease of liver <i>with mention of:</i> Q61.1-Q61.3 (Polycystic kidney disease), code Q61.1-Q61.3
72	4.1.11 原死因コーディングのための注 P07.- 妊娠期間短縮および低出産体重に関連した障害, 他に分類されないもの P08.- 遷延妊娠および高出産体重児に関連した障害 もし、周産期死亡のその他の原因が記載されていれば、使用しない。	4.1.11 原死因コーディングのための注 P07.- 妊娠期間短縮及び低出産体重に関連した障害, 他に分類されないもの P08.- 遷延妊娠及び高出産体重児に関連した障害 もし、周産期死亡のその他の原因が記載されていれば、使用しない。記載された周産期死亡のその他の原因が新生児の呼吸不全 (P28.5) のみの場合はこれを適用しない。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding P07.- Disorders related to short gestation and low birth weight, not elsewhere classified P08.- Disorders related to long gestation and high birth weight Not to be used if any other cause of perinatal mortality is reported. <u>This does not apply if the only other cause of perinatal mortality reported is respiratory failure of newborn (P28.5).</u>
73	4.1.11 原死因コーディングのための注 P 72.2 – P 74 ... R69.- 原因不明および詳細不明の疾病	4.1.11 原死因コーディングのための注 P 72.2 – P 74 ... R57.2 敗血症性ショック R65.0 臓器不全を伴わない感染源の全身性炎症性反応症候群 R65.1 臓器不全を伴う感染源の全身性炎症性反応症候群 原死因コーディングには使用しない。原因となる感染症 (A00-B99) にコードする。原因となる感染症が記載されていない場合は、敗血症, 詳細不明 (A41.9) にコードする。 R69.- 原因不明及び詳細不明の疾病	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding ... perinatal period, unspecified (P96.9) R57.2 <u>Septic shock</u> R65.0 <u>Systemic inflammatory response syndrome of infectious origin without organ failure</u> R65.1 <u>Systemic inflammatory response syndrome of infectious origin with organ failure</u> <u>Not to be used for underlying cause mortality coding. Code to the originating infectious disease (A00-B99). If no originating infectious disease is mentioned, code to unspecified sepsis (A41.9).</u> R69.- Unknown and unspecified causes of morbidity
74	4.1.11 原死因コーディングのための注 S02. 頭蓋骨および顔面骨の骨折 複数の部位の記載がある場合は、頭蓋骨および顔面骨を含む多発骨折 S02.7 にコードする。 S06.- 頭蓋内損傷 頭蓋骨または顔面骨の骨折が、頭蓋内損傷と関連のある場合、骨折が優先される。 下記の記載を伴うもの： S02.- 頭蓋骨または顔面骨の骨折、S02 にコードする。	4.1.11 原死因コーディングのための注 S02. 頭蓋骨および顔面骨の骨折 複数の部位の記載がある場合は、頭蓋骨および顔面骨を含む多発骨折 S02.7 にコードする。 S06.- 頭蓋内損傷 頭蓋骨または顔面骨の骨折が、頭蓋内損傷と関連のある場合、骨折が優先される。 下記の記載を伴うもの： S02.- 頭蓋骨または顔面骨の骨折、S02 にコードする。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding S02. Fracture of skull and facial bones - When more than one site is mentioned, code to multiple fractures involving skull and facial bones, S02.7 S06. Intracranial injury - When a fracture of the skull or facial bones is associated with an intracranial injury, priority should be given to the fracture. - with mention of: - S02. (Fracture of skull or facial bones), code S02.